

069439

にほんご表現のページ

にほんごの資料 <d>

電子化した日本語・国語関係の資料です。

にほんごの質問 <q>

外国人や日本人からの質問とその答えを掲示しています。

にほんごの論文 <p>

本ページ作者の論文などを掲示しています。

にほんごのリンク <l>

参考になるサイトやページへのハイパリンクのリストです。

にほんごの用語集 <g>

日本語教師用の日本語学の用語集です。

うちやま・かずや (e-mail : uchiyama@kazu.nifty.jp)

[\[トップページ\]](#) > [\[現在のページ\]](#)

にほんごの質問

いろいろな日本人や外国人に受けた質問とその答えとをまとめたものです。

文章・文体

[昔の文書が漢字とカタカナで書かれているのはなぜですか？](#)

文字・表記

[「こんにちは」は「こんにちわ」と書いてもいいですか？](#)

[「十分」は「じっぷん」ですか？「じゅっぶん」ですか？](#)

[「おこのみやき」は、「お好み焼き」ですか？「お好み焼」ですか？](#)

[領収証で「壺」と書くのはなぜですか？](#)

[「四（シ）」と「四（よん）」はどう使い分けるのですか？](#)

[「期」の部首を「つきへん」というのはなぜですか？](#)

[「蝶」と「華麗」は「かれい」と書きますが、発音は違うと思います。](#)

[「々」は何と読むのですか？](#)

[野菜を「キュウリ」「サツマイモ」のようにカタカナで書くのはなぜですか？](#)

[外来語の表記にカタカナを用いるのはなぜですか？](#)

[会意文字と形声文字の見分け方を教えてください。](#)

[「コンピューター」と「コンピュータ」はどちらが正しいのですか？](#)

「二人組」は「ににんぐみ」ですか？「ふたりぐみ」ですか？

「国訓」は「訓読み」と同じ意味ですか？

「交じわる」と書かないのはなぜですか？

濁点を右上に付けるのはなぜですか？

漢字は全部で何字あるのですか？

語彙・意味

「名詞＋する」の動詞で、「する」の前に来る名詞に規則はある？

「のめりこむ」と「はまる」の違いは何？

「四（シ）」と「四（よん）」はどう使い分けるのですか？

「できるかぎり」と「できるだけ」とは同じですか？

「すごい」「すばらしい」「えらい」の違いは何ですか？

「明太子」と「たらこ」の違いは何？

「先生」と「教師」はどう使い分けるのでしょうか？

「どうして／なんで／なぜ」はどう使い分けますか。

「言う」「話す」「しゃべる」の違いは何ですか？

「～殿」はいつ使いますか？

「溶ける」と「とろける」の違いは何ですか？

「やり方」と「しかた」の違いは何ですか？

「やばい」と「まずい」の違いは？

「知ってる」と「分かってる」の違いは何ですか？

「いく」と「ゆく」の違いは？

「カツゼツが悪い」の「かつぜつ」が辞書に載っていないのですが。

「二六時中」とはどういう意味ですか？

「もうすぐ」と「いよいよ」の違いは何？

「プレゼントする」と「贈る」は同じ意味ですか？

「昼過ぎ」とは何時ですか？

「学生」と「生徒」はどう違いますか？

「～まみれ」と「～だらけ」の違いは何ですか？

「～うちに」と「～あいだに」の違いは何ですか？

「一年にわたって」と「一年を通して」の違いは何ですか？

「アパート」と「マンション」の違いは何ですか？

「...代」と「...料」とはどう使い分けますか？

「必ず」と「きっと」の違いは为什么呢？

日本語の語彙の数は全部でどのくらいですか？

「達人」と「鉄人」の違いは？

「あける」と「ひらく」の違いは何ですか？

日本語表現法

「この近くに郵便局が／はありますか？」の違いは何ですか？

「手を触れないで下さい」って書いてありました。「で」じゃダメでしょうか？

「どうしたんですか？」と「どうしましたか？」の違いは为什么呢？

「～わけではない」とはどういう意味ですか？

「メールをありがとう」は正しい表現ですか？

「どうして／なんで／なぜ」はどう使い分けますか。

「試験を準備する」と「試験の準備をする」とは意味が違いますか？

「メールを見る」や「インターネットをする」は正しいですか？

「学校を出る」と「学校から出る」の両方が使えるのでしょうか？

「予約したほうがいいですか？／いいでしょうか？」の違いは何ですか？

「子供がいます」と「子供があります」の違いはなんですか？

「どちらでもいいです、どちらもいいです、どちらともいいです」みんな一緒？

「どこへ(に)行きますか」と「どこへ(に)行くんですか？」はどう違いますか？

「花より団子」は、どんな場面で使いますか？

「あんな」と「あんなに」の違いは何ですか？

「～から」と「～けど」の違いは何ですか？

部屋を出るときに「失礼しました。」というの正しいですか？

「先生が私に／私の推薦状を書いてくださいました。」は、どちらが正しいですか？

「世話になっている人」とは誰のことですか？

「必ず」と「きっと」の違いはなんですか？

「しつけがつく」という言い方はありますか？

「見れる」は正しい表現ですか？

その他

「叙想的テンス」とは何ですか？

「4本」が「よんぼん」とならないのはなぜですか？

「国訓」は「訓読み」と同じ意味ですか？

なぜ漢語は外来語ではないのですか？

「借用語」と「外来語」は同じ意味ですか？

なぜ「焼肉定食」は四字熟語ではないのですか？

「白川」は[しら]なのに「黒川」が[くら]でないのはなぜですか？

日本語の語彙の数は全部でどのくらいですか？

漢字は全部で何字あるのですか？

[ページの先頭へ↑](#)

[トップページに戻る](#)

UCHIYAMA, Kazuya (e-mail: uchiyama@kazu.nifty.jp)

にほんごの資料

- [日本語学関連用語集](#)
- [日本語能力試験に関する資料](#)
 - [日本語能力試験カタカナ語彙表](#) (附繁体字中国語訳：外部リンク)
 - [日本語能力試験出題基準語彙表・1～4級](#) (附繁体字中国語訳：外部リンク：HTMLファイル 1.6MB)
 - [日本語能力試験出題基準語彙表・4級](#) (附繁体字中国語訳：外部リンク)
 - [日本語能力試験出題基準語彙表・3級](#) (附繁体字中国語訳：外部リンク)
 - [日本語能力試験出題基準語彙表・2級](#) (附繁体字中国語訳：外部リンク)
 - [日本語能力試験出題基準語彙表・1級](#) (附繁体字中国語訳：外部リンク)
 - [日本語能力試験出題基準漢字表・3級](#) (外部リンク)
 - [日本語能力試験出題基準漢字表・2級](#) (外部リンク)
 - [日本語能力試験出題基準漢字表・1級](#) (外部リンク)
 - [日本語能力試験出題基準文法・2級サンプル](#) (外部リンク)
 - [日本語能力試験出題基準文法・1級サンプル](#) (外部リンク)
- [国語の表記に関する資料](#)
 - [『現代仮名遣い』](#) 1986年7月1日 内閣告示第1号
 - [『送り仮名の付け方』](#) 1973年6月18日 内閣告示第2号
 - [『外来語の表記』](#) 1991年6月28日 内閣告示第2号
 - [『ローマ字のつづり方』](#) 1954年12月9日 内閣告示第1号
 - [『くぎり符号の使ひ方』](#) 1946年3月 文部省教科書局調査課国語調査室
 - [『くりかへし符号の使ひ方』](#) 1946年3月 文部省教科書局調査課国語調査室
- [日本語教科書語彙表](#) (TSV形式・Stuffit圧縮ファイル；92KB)
- [実用カタカナ語2010](#) (附繁体字中国語訳：外部リンク)

[トップページに戻る](#)

にほんごのリンク

にほんご関係	日本語教育関係	学会・教育機関関係	その他
------------------------	-------------------------	---------------------------	---------------------

にほんごに関するページ・サイト

ページ・サイト名	簡単な説明
日本語Q & A	□日本語教師歴10年目の現職の日本語教師□で□神奈川県在住の樹（いつき）[さん]が個人で管理運営している□のサイトです。日本語に関するさまざまな質問に管理人が回答しています。項目も豊富で、説明も本ページよりわかりやすいですね。
日本語とその周辺	□中国語がどのように日本語に入って音読になったのか、本地方言と沖縄方言はどのように対応するのか、等いろいろ考察□されています。 言葉の世界 サイトのコンテンツです。
シソーラス（類語）検索	22万語を収録した類語辞典です。(株)言語工学研究所サイトのコンテンツ。
国語施策情報システム	国語に関する法令や国語審議会の記録などが閲覧できます。文化庁サイトのコンテンツ。
語源探究雑学エッセイ集「コトバ雑記」	□身近なコトバの語源を探る雑学エッセイ集□です。外来語に関する話題が多いようです。
言葉の質問箱	□漢字や語彙に関するQ & A□です。光村図書のサイトのコンテンツです。

<p>A. IIDA'S Home Page</p>	<p>言語学・英語教育が専門の管理人によるサイトです。「常設展示」内に日本語に関する「素朴な疑問」があります。</p>
<p>日本語教育・日本語学習：スペースアルク</p>	<p>□日本語を教える人と日本語を学習する人がともに楽しめるポータルサイト□だそうです。日本語に関するQ&Aもたくさん用意されています。</p>

[ページの先頭へ↑](#)

日本語教育に関するページ・サイト

ページ・サイト名	簡単な説明
<p>日本の料理を通して学ぶ日本語</p>	<p>□広島大学教育学部日本語教育学科の黒木結城 [さん] が卒業論文として研究した結果に基づいて作成されています。</p>
<p>日本語教育・日本語学習：スペースアルク</p>	<p>□日本語を教える人と日本語を学習する人がともに楽しめるポータルサイト□だそうです。本ページ作者も NAFL Institute でアルバイトをしていました。</p>
<p>日本語駆け込み寺</p>	<p>「日本語表現文型辞典」をはじめ、様々な資料があります。</p>
<p>にほんごのページ</p>	<p>育達商業技術学院 [台湾] 応用日語系の日本語授業用ページです。会話の教材や日本語能力試験用の練習問題があります。本ページの姉妹サイトです。</p>
<p>にほんごのページ</p>	<p>授業用の教材や日本語能力試験用の練習問題があります。http://web.ydu.edu.tw/~uchiyama/のミラーです。</p>

[ページの先頭へ↑](#)

学会・教育機関のページ・サイト

--	--

ページ・サイト名	簡単な説明
表現学会	表現学会の公式ウェブページです。学会の設立経緯や、活動（研究）内容がわかります。
計量国語学会	計量国語学会のウェブページです。『計量国語学』の目次などが調べられます。
韓国日本文化学会	表現学会 と学術交流協定を結ぶ韓国の学会です。
日本文体論学会	日本文体論学会のウェブページです。
育達商業科技大學	現在の勤務先（ 人文社会学群應用日語系 ）です。
広島大学情報メディア教育研究センター	以前の勤務先です。

[ページの先頭へ↑](#)

その他のページ・サイト

ページ・サイト名	簡単な説明
溪水社	広島にある出版社です。学術書などを刊行しています。
パレスチナ・オリーブ	中東の地域・文化情報の紹介や良質なオリーブオイルのフェア・トレードをしているサイトです。
レシピ置き場	おつまみや鍋・ご飯料理の簡単なレシピがあります。

[ページの先頭へ↑](#)

[トップページに戻る](#)

[\[トップページ\]](#) > [\[現在のページ\]](#)

用語集

日本語教師用の日本語学関連の簡易用語集です。

現在の見出し数：2385

《ア イ ウ エ オ 順》

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ		ユ		ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ				ヲ

[reference](#)

[history](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[\[トップページ\]](#) > [\[現在のページ\]](#)

発表論文・資料

日本語表現学

- [070606 「現代日本語表現における同質性と異質性について」](#)
- [060701 「台湾日本語学習者における『謝罪を申し出る表現』のテキストの構造について」](#)
- [050701 「日本人の依頼行為における順序構造について」](#)
- [040124 『e-textの文体論』](#)（学位論文）
- [030701 「ブログの表現に関する一考察」](#)
- [030607 発表資料（ブログの表現スタイルについて）](#) [pdfファイル; 37KB](#)
- [030607 発表資料・縮約版（ブログの表現スタイルについて）](#) [pdfファイル; 30KB](#)
- [020931 「振り仮名表現の諸相」](#)
- [011031 「現代口語体の表現スタイルについて」](#)
- [001031 「e-textにおける句読点に関する一考察」](#)
- [990930 カタカナ語（抄）](#)
- [971031 「『終わり』ということ」](#)

[ページの先頭へ↑](#)

日本語教育

- [030226 報告書「日本語教科書の語彙」](#) [pdfファイル; 86KB](#)
- [030226 \(付\)日本語教科書語彙表](#) [TSV形式・Stuffit圧縮ファイル; 92KB](#)
- [010501 日本語教師養成講座用資料・文字表記](#) [pdfファイル; 88KB](#)
- [010501 文字表記・補助資料 その1](#) [pdfファイル; 20KB](#)
- [010501 文字表記・補助資料 その2](#) [pdfファイル; 16KB](#)

[ページの先頭へ↑](#)

日本語文体論

- [070701 「転義法における隣接性と事実の上の関係」](#)
- [060701 「ウソと隠喩について」](#)
- [050731 「転義法の分類に関する小考」](#)
- [040628 発表原稿（文字ベースのコミュニケーションにおけるパーソナル化の諸相）](#)
- [040124 『e-textの文体論』](#)（学位論文）
- [031204 「スタイルの蒐集について」](#)
- [021031 「消しゴムについての文体論的ノート」](#)

020731 [「スタイルの計量に関する覚書」](#)

○ 020331 [「隠喩が意味を失うとき \(ハイパテキスト版\)」](#)

○ 991120 [「色彩語の表現」](#)

[ページの先頭へ↑](#)

[トップページに戻る](#)

UCHIYAMA, Kazuya (e-mail: uchiyama@kazu.nifty.jp)

 の検索窓：

うちやま・かずや

UCHIYAMA, Kazuya

学歴：広島大学大学院教育学研究科日本語文化教育学専攻博士課程後期修了, 博士（学術）

経歴：（台湾）育達商業技術學院語言學群應用日語系助教授

現職：（台湾）育達商業科技大學人文社會學群應用日語系助教授

専攻：日本語学（表現学・文体論）

[ホームに戻る](#)

069440

にほんご表現のページ

にほんごの資料 <d>

電子化した日本語・国語関係の資料です。

にほんごの質問 <q>

外国人や日本人からの質問とその答えを掲示しています。

にほんごの論文 <p>

本ページ作者の論文などを掲示しています。

にほんごのリンク <l>

参考になるサイトやページへのハイパリンクのリストです。

にほんごの用語集 <g>

日本語教師用の日本語学の用語集です。

うちやま・かずや (e-mail : uchiyama@kazu.nifty.jp)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまともてあります。

にほんごの質問

～文章・文体～

質問

明治や大正時代の文章には、助詞や送り仮名をカタカナで書いたものと平仮名で書いたものがあります。なぜですか？

こたえ

カタカナは、平安時代に漢文訓読の補助符号として成立したものであるといわれています。そのため、学問の場で使われる文字と認識されてきました。このことは、幕末から明治・大正時代に至っても維持されました。

幕末・明治期の知識層が一般的に用いる書きことばは、漢文や漢文直訳体でしたが、これらは漢字とカタカナ（漢文では本文の読み仮名・送り仮名としてカタカナが振られました）とで書かれました。学問的な文章や公的な文書は、「漢字カタカナ交じり文」で書かれていたのです。また、カタカナは、学問の講義の場でも用いられました。江戸時代後期には、すでに、漢文の注釈・解説を「漢字カタカナ交じり文」で付したテキストや、師匠の講釈を「漢字カタカナ交じり文」で写したテキストが用いられていました。この流れを承けて、幕末・明治初期の論説的文章、学問的教科書、翻訳書や啓蒙書が、「漢字カタカナ交じり文」で書かれることになりました。また、論説的・啓蒙的な書籍が、対象とする読者層を広げてゆくと、硬い文章だけでなく、口語的要素の強い文語文（軟文型文語文）や言文一致文などの軟らかい文章にも「漢字カタカナ交じり文」が見られるようになります。

一方、和文（平安期の物語・日記文に倣った文章）の他、言文一致文や軟文型文語文

などの平易であることを目指した軟らかい文章、問答文や戯作など庶民のことは（俗語）を含むものでは、「漢字平仮名交じり文」が用いられました。また、小説や物語の文章でも、「漢字平仮名交じり文」が多かったとされています（和文の伝統に従ったものと思われます）。

明治初期には、硬い文章が「漢字カタカナ交じり文」、軟らかい文章が「漢字平仮名交じり文」というおおまかな使い分けがあったといえますが、「漢字カタカナ交じり文」の勢力はかなり軟らかい文章にも及んでいました。ただ、「漢字カタカナ交じり文」は、あくまでも学問の場での文章をもとにしたものでした。そのため、庶民が常用する文章や児童が学校で教授される文章の表記としては、「漢字平仮名交じり文」の方がより平易であり望ましいという主張が（明治10年代以降）多くなされるようになりました。その結果、「漢字カタカナ交じり文」は減少してゆくこととなります。しかし、論説文や公文書の中では、後々まで生き残ってゆくのです。（参考文献：木坂1992,1999など。）

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

「こんにちは」は「こんにちは」と書いてもいいですか？

こたえ

□現代の国語を書き表すための仮名遣いのよりどころ□を示している『[現代仮名遣い](#)』は、発音通りに表記することを基本としています。しかし、いくつかの例外も含まれています。そのひとつに助詞の「は」に関するものがあります。助詞の「は」は、[ワ]と発音されますが、「は」と書くものとされています。

問題は、[コンニチワ]が〈コンニチ・ワ〉のように2つの語の結合なのか、〈コンニチワ〉のように1つの語なのかということです。[コンニチワ]は、「今日《こんにちは》は、ご機嫌いかがですか?」、「今日《こんにちは》は、お日柄もよろしく……」などの言い方の一部があいさつの表現として慣用化したものと考えられます。このことから、『現代仮名遣い』は、「こんにちは」と書くものとしています。つまり、〈「今日」+助詞「は」〉と考えるということです。なお、「こんばんは」についても同じことがいえます。但、これは、あくまでもゆるやかな規範であり、「こんにちは」や「こんばんわ」と書いてはいけないということではありません。また、カタカナは発音通りに表記する表音仮名ですから、カタカナで書く場合には「コンニチワ」として構いません。

[このページの先頭へ↑](#)



[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

「十分」は、「じっぷん」ですか？「じゅっぷん」ですか？

こたえ

「十 (zip)」は、開音節化されて [ジフ] のようになる唇内入声音《しんないにっしょうおん》(-p) をもつ字で、歴史的仮名遣いでは「じふ」と書きます（但、呉音。漢音では「しふ」）。漢字音の場合、入声《にっしょう》音に k・s・t・h(f) の子音が接続するときに〈促音化〉が生じます。合戦（カフ>カツ）、早速（サフ>サツ）、納豆（ナフ>ナツ）などがその例です。同じように、「十」に「回」「冊」「頭」などが接続すると、それぞれ「ジツカイ」「ジツサツ」「ジツトウ」と発音されることとなります。また、「十本」の場合、促音の直後のハ行音は p 音化する現象があるために「ジツポン」となります。これらの発音を『現代仮名遣い』に従って書き表わせば、「じっかい」「じっさつ」「じつとう」「じっぽん」のようになるでしょう。このことから、「十分」という漢字の〈読み〉は「じっぷん」であると考えられます。実際に、『常用漢字表』でも「十」の音訓欄に「ジツ」の音があり、例として「十回」があげられています。

なお、現代語で [ジュー] と発音し「じゅう」と書く文字は、一般に促音化しません。「渋滞 (ジフ)」や「住宅 (ヂュウ)」、「銃殺 (ジユウ)」などが例となります（カッコ内は字音による発音を示す）。このことから、[ジユップン] という発音（促音化）は、「十分」の規範的な読みである [ジツポン] と「十」のもう一つの音読み「ジユウ」との類推によるもの（誤った慣用）ではないかと推定できます。

但、これは「十分」という漢字（熟語）の〈読み〉の問題です。現在、「10分」は [ジュップン] と発音されるのが普通です。話しことばは、書きことばのように正式のものではありませんから、単に「10分」という意味を表わす場合には、[ジュップン] でも [ジップン] でも、好きなように発音して構わないといえるでしょう。また、話しことばで [ジュップン] という発音が一般的である以上、「10分」を「じゅっぶん」と読んだり、平仮名で「じゅっぶん」と書くのも間違いとはいえません（現在の仮名遣いの規範では、発音通りに書くのが基本です）。「十分」という漢字の読みを「じゅっぶん」とするのは正しいとはいえないというだけです。

まとめると次のようになります。

- “10 minutes”を表わす語：「じゅっぶん」・「じっぶん」（現在では「じゅっぶん」の方がふつう）
- 「10分」という語の読み方：「じゅっぶん」・「じっぶん」（現在では「じゅっぶん」の方がふつう）
- 「十分」という語の読み方：「じっぶん」

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

「おこのみやき」は、「お好み焼き」ですか？「お好み焼」ですか？

こたえ

このような送り仮名の問題は簡単ではありませんが、結論からいうと、どちらも間違いではありません。[『送り仮名の付け方』](#)に従えば、「お好み焼き」が本則による表記、「お好み焼」が許容による表記となるでしょう。

『送り仮名の付け方』の通則6（複合語の送り仮名）では、複合語の送り仮名は、個々の語の送り仮名に準ずることが示されています。そのため「おこのみやき」は「おこのみ・やき」とわけて考えることとなります。また、『送り仮名の付け方』の通則4（活用のない語の送り仮名）に「活用のある語から転じた名詞...は、もとの語の送り仮名の付け方によって送る」とあることから、「やき」を「焼き」と書くのが本則に従った表記となります。そして、同じ通則4に「読み間違える恐れのない場合には...送り仮名を省くことができる」とあることから「焼」が許容される表記となります。

なお、すでに述べたように『送り仮名の付け方』では、「当たり」「香り」のように活用語から転じた名詞には、もとの語と同様の仮名を送ることになっていますが、「組」「次」「話」などの語は送らない例外となっています。但、「活字の組み」のように動詞とのつながりが意識できる使い方では、送り仮名を送ることになります。また、「九谷焼」「備前焼」のような伝統工芸品の場合は、通則7により、慣用にしがたって送らないこととなります。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)



[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

領収証で「壹」と書くのはなぜですか？

こたえ

領収証などでは「金壹千円也」と書くことがあります。これは、数字の書き換えを防ぐために用いられるもので、額面の前に「金」や「¥」をつけ、額面の後に「也」や「一」をつけるのと同じ目的です。「壹」は「一」と同じ発音を持つ文字を当てたもので、「壹」本来の意味は「もっぱら、ひとえに、すべて」です（また、常用漢字の「壹」は俗体で、正格は「壹」）。同じように「弍（2：そえる、わかる）」、「参（3）」、「伍（5：組、五人組）」、「拾（10）」、「萬（万は略字として常用された別字による）」などを用います。他にも「肆（4）」「陸（6）」、「漆（7）」「捌（8：さばく）」、「玖（9：玉の一つ）」、「仟（かしら）」「阡（みち）」などの書き換えがあります。このように数字のかわりに用いられる漢字を「大字《だいじ》」といいます。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「四（シ）」と「四（よん）」はどう使い分けるのですか？

こたえ

「四（シ）」と「四（よん）」の使い分けは、おおむね習慣的なものといえるでしょう。

「一、二、三、四、五、六、七、八、九、十」をすべて音で読めば、「イチ・ニ・サン・シ・ゴ・ロク・シチ・ハチ・キュウ・ジュウ」となります。逆に、すべて訓で読めば「ひ・ふ・み・よ・いつ・む・なな・や・ここの(つ)・とお」となります。前者の系列は漢数字と呼ばれ、一般に漢字で表記されます。後者の系列は和数字と呼ぶことができるもので、漢字や平仮名で表記されます。なお、「1,2,3,4,5,6,7,8,9,10」のように表記された数字は、算用数字またはアラビア数字といいます。

漢数字と和数字とは、序数において併存しています。日にちをいうときには、「ついで・ふつか・みっか・よっか・いつか・むいか・なのか・ようか・ここのか・とおか」と10日までは和数字を用い、それ以降は「ジュウイチニチ、ジュウニニチ、ジュウサンニチ...」と漢数字になります。ただ、20日になると再び「はつか」と和数字になります。年齢をいうときには、「イッサイ、ニサイ、サンサイ.....」という漢数字と「ひとつ、ふたつ、みつつ.....」という和数字とが10までは併存します。それ以降は、「ジュウイッサイ、ジュウニサイ、ジュウサンサイ...」と漢数字のみになりますが、20才で再び「はたち」と「ニジッサイ」とが並行するようになります。また、助数詞に接続したと

きに、「～羽」などでは「イチ～、ニ～、サン～、よん～、ゴ～……」と、「～切れ」では「ひと～、ふた～、み～（サン～）、よ～、ゴ～、ロク～……」、「～人」では「ひとり、ふたり（ニ～）、サン～、よ～、ゴ～」となり、和数字と漢数字の使い分け方は同じではありません。このような使い分けの基準は、習慣による部分が大きいものと思われます。

ここで、まず「七」について考えてみると、「一階（イッカイ）」や「八階（ハッカイ・ハチカイ）」で漢数字の使用が通例であるのに対して、「七階（ななカイ）」のように和数字でいわれることが多いという違いがあります。また、「七回忌（シチカイキ）」のようにいう場合にも、「一階（イッカイ）」や「八階（ハッカイ）」のように促音化を生じません。「七回」で促音化が生じないのは、「シチ」の[シ]の部分で母音が無声化する傾向があるために、促音化が阻まれていると説明されることが多いようです。また、この母音の無声化は、「シチ」という音そのものを聞き取りにくくしていると思われる（たまに「ヒチ」のように聞こえる発音を耳にすることがあると思います）。そのために、字訓の「なな」を用いることが多くなるものと思われる。また、字音「シチ」が「一」や「八」と同じ型であり、発音も似ていることから、「一」や「八」との混同を避けるという配慮もありそうです。

「四」についても同じことが言えます。「四人（よニン）」「四時（よジ）」「四千（よんセン）」では、字訓の「よ」あるいは「よん」が使われます。これには「死」との連想を避けるという意味もあるかもしれませんが、「シニン」「シジ」「シセン」などが発音しにくい（聞き取りにくい）ということも大きいでしょう。また、「よん」は訓読みですから、音読みの「サン（三）」のような音形変化は生じません。例えば、「三階」は[サンガイ]となりますが、「四階」は[ヨンカイ]となって濁りません。
[→「『4』が『よんぼん』とならないのはなぜですか?」]

また、「一、二、三、四、五、六、七、八、九、十」の読み方についてですが、一般には「イチ・ニ・サン・シ・ゴ・ロク・シチ・ハチ・キュウ・ジュウ」と読む人が多いようです。しかし、「十、九、八、七、六、五、四、三、二、一」となると「ジュウ、キュウ、ハチ、なな、ロク、ゴ、よん、サン、二、イチ」となる場合がほとんどです。これは発音のしやすさと、習慣というふたつの要因によるものでしょう。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)



[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまともてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

「月」が左側がないのに「つきへん」というものがあり、左側にあっても「つきへん」といわないものがあるのはなぜですか？

こたえ

「期」という漢字の「月」の部分と、「肝」という漢字の「月」の部分は、見掛け上同じ形をしています。しかし、「肝」という漢字の「月」の部分は、本来は「肉」という字です。「肉（にく）」が偏（へん）になるとときには「月」の形になり、肉月（にくづき）と呼ばれるのです。一方、「期」という漢字の「月」の部分は、もともと「月」であり、「月（つき）」または「月偏（つきへん）」と呼ばれます。「にくづき」と「つきへん」とは同じ形ですが、別々の成り立ちをもっており、意味上の関係はありません。「つきへん」を部首とする漢字は「朗」「期」「朧（おぼろ）」など月（天文的現象）や日にち（暦に関する事など）に関わることが多く、「にくづき」を部首とする漢字は「脚」「腰」「肥」など身体部位やその状態に関係することが多いといえます。また、「舟」の変形である舟月（ふなづき）も、通用字体では「つき」や「にくづき」と同じ形になります。「ふなづき」は、「服（もとは舟の添え板の意味）」のように、舟に関係する漢字をつくります。

一般に、「偏」とは〈漢字の左側の位置を占めるもの〉を言いますが、「〇〇偏」と呼ばれるものが常に必ず漢字の左側にあるというわけではありません。漢字によっては、冠（かんむり）や脚（あし）・傍（つくり）などになる場合もあります。また、「にくづき」は、一般に、部首として「偏」の分類に含まれるものです。「偏」が必ず

「〇〇へん」、傍が必ず「〇〇つくり」などの名称をもつわけではありません。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

「カレイ（鰈）」と「華麗」は、平仮名で書くと同じ「かれい」ですが、発音は違うと思います。なぜですか？

こたえ

実際に、「鰈」は [カレイ]、「華麗」は [カレー] と発音される傾向があると思います。

日本語では、歴史的に、連母音を回避する傾向があります。特に、上代の日本語は連母音を回避するという原理が徹底されていました。具体的には、母音融合・子音挿入・音韻脱落といった方法で連母音を回避していました。これらのうち、もっとも類例の多いやり方は母音融合です。

母音融合

咲き [saki] + あり [ari] → 咲けり [sakeri] さけり ※ i + a > e

子音挿入

春 [Faru] + 雨 [ame] → 春雨 [Faru s ame] はるさめ ※ s の挿入

音韻脱落

我妹子 [wagaimoko] → 我妹子 [wagimoko] わぎもこ ※ a の脱落

上代語は連母音を徹底的に回避していましたが、平安期になって漢字音の日本語へのとり入れが進むと、語中での母音の連続が一般化してゆくことになりました（例えば、「校（カウ）」 [kau] などの重母音を含む漢字音をうけいれたため）。漢字音のとりい

れは、日本語の旧来の音節構造を改変し、その中で、音便による音節構造の改変なども可能になっていったと考えられます（例えば、イ音便やウ音便は、上代語が徹底して回避していた母音の連続を生じさせます）。漢字音の定着や音便形の定着によって、語中に連続した母音が普通に立つようになると、広く母音融合の音声変化が見られるようになります。早くは平安後期（院政期）の文献に見いだされ、特に東国方言（関東地方の方言）に先行して生じていたと考えられています。

その後、近世になって関西の方言と関東の方言とが対立するようになり（江戸期に対立が成立したとされています）、江戸期後半には上方語に対して江戸語が優位になります。その中で、標準としての価値を確立しようとするとき、江戸語には、土着語としての特性を捨てる必要があったと考えられます。語中・語尾の母音の融合は、その代表的な例と思われます。江戸語では、[イセーガエー]（威勢がいい）、[アブネー]（あぶない）、[オモシレー]（おもしろい）のように、母音融合が一般的に生じていました。しかし、このような土着性は価値の低いものと見なされ、書きことばの姿を保存することが標準的であること条件として選ばれていったと考えられます。一般に、書きことばと話しことばの語形が対立した場合には、より高い価値は書きことばにおかれます。そのことから、書きことば形が標準として選ばれ、標準となった書きことば形が音変化を阻止するように働くこととなります。文字通りに発音することが標準的な発音であると見なされてゆく傾向があるわけです。たとえば、方言においては現代でも母音融合が広く見られます（例：赤い [アケー]）が、（全国）共通語では融合しない形が正式と意識されます（例：赤い [アカイ]）。

しかし、母音の融合は、むしろ自然な音変化であるということもできます。実際に、「経済」などの語では [ケイザイ] / [ケーザイ] と発音に「ゆれ」がみられます。この発音のゆれは、表記の問題にもなります。[『現代仮名遣い』](#)では、エ列の長音は「エ列の仮名に『え』を添える」とされており、「ねえさん」「ええ（応答するときの語）」「すげえ（「すごい」の俗語的な形）」のようになります。しかし、「時計」や「映画」などの語は、実際の発音にかかわらず、「とけい」「えいが」と書くことが『現代仮名遣い』の「付記」に示されています。

ただ、わたしたちは、「時計」を [トケー] ・「映画」を [エーガ] と発音していると思います。現在では、「ゆれ」というよりもエ列の長音で発音するのが普通なのです（特別に丁寧に発音する場合を除く）。このような傾向は、主に漢語（熟語）に見られるもので、それ以外の語は割って（文字通りに）発音されることが多いといえます。そのため、「い」の仮名に関しては、「鯨」 [カレイ] と華麗 [カレー] のように二通り

の読み方が存在するものが生じるわけです。同様の例として、「けいろ」（「毛色」
[ケイロ]と「経路/径路」[ケーロ]）、「ていたい」（手痛い[テイタイ]・停滞
[テータイ]）、「えいり」（絵入[エイリ]・営利/鋭利[エーリ]）などが挙げられ
ます。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

「々」は何と読むのですか？

こたえ

まず、文字の〈読み〉というときに、「読み上げ方」（家辺1998の用語による）と「呼び方」とを区別して考える必要があります。例えば、『外』という文字（漢字）を、「『そと』という字」と呼ぶことができるでしょう。しかし、『外』には「そと」「ほか」「と」「はず(す)」「ガイ」「ゲ」などの様々な読み方があります。つまり、ある文字をどのように呼ぶかということ（＝呼び方）と、その文字をどのように読むかということ（＝読み上げ方）とは、異なるものなのです。

一般に、あらゆる文字はそれぞれの〈呼び方〉を持っていますが、〈読み上げ方〉を持っているとは限りません。このことは、文字が原理的に発音可能である（何らかの音声に置き換えることができる）ものに過ぎず、音声を表わすためのものではないということの意味していると解釈できます。例えば、『、』には「読点」や「テン」という〈呼び方〉がありますが、「私は、学生です」という文を「ワタシハトウテンガクセイデス」「ワタシハテンガクセイデス」のように読み上げることはありません。これは、『、』を「トウテン」や「テン」という音声に置き換えることはできても、『、』が特定の音声を表わしているのではないということです。つまり、『、』には、固有の〈呼び方〉はありますが、固有の〈読み上げ方〉はないのです。日常的に使われる文字のうち、このように〈呼び方〉だけがあって〈読み上げ方〉のないものを、特に、「表記符号」と呼ぶことがあります。句読点やカッコの類、『？』や『！』はすべて表記符号で

あるといえます。

「々」という文字も、表記符号の一種であるといえます。これは、漢字の繰り返しを示す表記符号で、「同の字点（同《どう》ノ字点）」と呼ばれます（『[くりかへし符号の使ひ方〔をどり字法〕（案）](#)』による呼び方）。俗には、その字形を分解して「ノマ」と呼ぶこともあります。また、「々」「ㄨ」「ㄥ」などの同字反復を示す表記符号は、「繰り返し符号」と総称されます（「重文《じゅうもん》」「疊字《じょうじ》」「重ね字」「おどり字」ともいいます）。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまともてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

スーパーで、野菜を「キュウリ」「サツマイモ」のようにカタカナで書くのはなぜですか？

こたえ

動植物の名前には、カタカナで表記する習慣があります（「サル」「ウマ」「バラ」「ユリ」など）。これは、生物学で和名をカタカナ表記する慣用に由来すると思われます。和名は日本国内での動植物の正式な呼び方で、もともと地方ごとに大きく異なっていた呼び名を標準化したものです。和名を一般にカタカナで表記するのは、表記形を統一するという意味があるものと思われます。例えば、生物学の分野では、動植物の学名はアルファベットで表記されます。学名をアルファベットで表記すれば、それが実際にどのように発音されるかということとは無関係に、国際的に同じ表記形を用いることができます。同じように、和名にも、カタカナを用いれば表記形を統一することができるということでしょう。漢字や平仮名では表記が煩雑になったり、表記に「ゆれ」の可能性があるかもしれません。また、平仮名では語を同定する機能も低くなるでしょう。

スーパーマーケットなどで野菜・果物の名前（商品名）をカタカナで表記するのは、動・植物名をカタカナで表記する習慣に従ったものだと思います。但、カタカナで表記するという規範が確立しているわけではないので、「みかん」「大根」「南瓜《かぼちゃ》」「ほうれん草」などの多様な表示が見られることにもなっています。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)



[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

外来語の表記にカタカナを用いるのはなぜですか？

こたえ

カタカナは、平安時代に漢文訓読の補助符号として成立したものであるといわれています。このことが、カタカナのイメージに深く影響してきたと思われます。まず、カタカナは学問の場（主に外来の思想の受容）などの日常的な言語活動とは異なるやや特殊な場面で使われる文字と認識されてきました。また、補助記号として成立したことは、学問の場などにおいても、カタカナを付属的なものと意識させることになったと思われます。これらのことから、カタカナは、外国語に接する場における実用的な文字として、表音的な性質を強く担わされることになったと考えられます。そのため、外来語をカタカナで（表音）表記することが自然なこととして選択されたのでしょう。

カタカナは、外来語（語彙として日本語の語彙体系に組み込まれているもの）だけでなく、外国語（日本語の語彙体系の一部とは認めにくいもの。例：「ロード・オブ・ザ・リング」、「アイ・ラブ・ユー」、「ウェルカム」）の表音表記にも用いられています。但、外国語の表記に関しては、アルファベットで表記することも多くなっています。特に、固有名詞についてはアルファベット表記の方が一般的であるようにも思います。外国語のアルファベット化が外来語の表記に影響するかどうかはわかりませんが、将来的にカタカナ表記された語の比率は減少してゆくと、私は予測しています。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)



[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

会意文字と形声文字の区別がつかないのですが、どのように見分けたら良いのでしょうか？

こたえ

日常的な言語使用において、漢字の成り立ちを見分けなければならないということは、おそらくないでしょう。ただ、国語や日本語教育能力検定の試験では、漢字の成り立ちに関する知識が問われることがあります。漢字の成り立ちを見分けなければならないとき、会意と形成との区別にはやや難しいところがあるようです。そもそも、漢字の字源(解釈)にはあやふやな部分も少なくなく、通説とされるものの中にさえ根拠の薄弱なものがあるようです。そのため、字書・字典によって「会意文字」と「形声文字」の判断に違いがあるといったこともありえます。

会意文字も形声文字も、既存の文字の組み合わせによって構成される文字という点では同じです。複数の文字のいずれからも意義をとって構成される（基本的に音は関係しない）のが会意文字、複数の文字の一方から意義をとって、一方から音をとって構成されるのが形声文字です。したがって、部分の音が全体の音に通じるかどうかという点で見分けるのが一般的な方法ということになります。また、同字の反復と見られる字体を持つ漢字は、会意文字である可能性が高いと判断することもできます（「林」「炎」「北」「森」など）。あるいは、漢字の約9割が形声文字であるといわれていることから、「休」「位」「信」「明」「孫」などの代表的な会意文字を覚えておくこともできるかもしれません。すでに述べたように、会意文字と形声文字の厳密な判断には困難な

部分もあるため、試験問題には代表的なものしか現われないでしょう。また、国字（日本で造字された漢字）は主に会意文字ですから、国字と一緒に覚えるのもいいかもしれません。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまともてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

「コンピューター」と「コンピュータ」はどちらが正しいのですか？

こたえ

どちらも正しいと考えられます。

内閣告示『[外来語の表記](#)』によれば、□長音は、原則として長音符号「ー」を用いて書く□ことになっており、□英語の語末の -er、-or、-ar などに当たるものは、原則としてア列の長音とし長音符号「ー」を用いて書き表す□とされています。同時に、□ただし、慣用に応じて「ー」を省くことができる□との但し書きが付されており、「コンピューター」「コンピュータ」の両形が例示されています。したがって、「コンピューター」が原則的な表記ということですが、「コンピュータ」と書いても構わないということです。

一方、工学・技術系では、「コンピュータ」のように語尾に長音記号を付けない表記が慣習的に行なわれています。日本工業規格 (JIS) では、規格票の様式の規格 (JIS Z 8301:1996) において、〈3音節以上の語は語尾の長音記号を省く・2音節以内の語では省かない・複合語はそれぞれの単語による〉と定められていました。但、現行の標準 (JIS Z 8301:2000) では、□外来語の表記は、主として“外来語の表記”平成 3.6.28, 内閣告示第二号) による□ものと改められ、□外来語をカタカナ書きで用語として採用することは、それが一般的に受け入れられているものでない限り避ける□とされています。また、新聞社などでは、内閣告示に準拠し、正式な表記を「コンピューター」に統

一しているようです。ただ、「コンピューター」という表記は、原語の発音の実態からは離れているので注意が必要かもしれません。computerの発音は、英語でも米語でも語尾は短母音となるのが標準だということです。

「コンピューター」と「コンピュータ」とは、どちらが正しいという性質の問題ではないと思います。そもそも『[外来語の表記](#)』は、□外来語や外国の地名・人名を片仮名で書き表す場合のことを扱う□ものとされており、外来語をカタカナで表記するというきまりがあるわけではありません。日本語の表記は、文字体系の使い分けに関して、日常的な慣用以上の規範はないのです。そのため、「コンピューター」、「コンピュータ」、「こんぴゅうたあ」、「電腦《コンピューター》」、「konpy t」のどれが正しいのかはわかりません（決められません）。ですから、文字体系の使い分けの規範が明文化されていない状況で、「コンピューター」と「コンピュータ」とのどちらが正しいかを定めることに特別の意味はないと思います。

ただ、「コンピューター」と「コンピュータ」とで、それぞれから受ける印象に違いがあるのは確かでしょう。「コンピュータ」を通ぶった・きどった表記だと感じる人もいるのかもしれませんが、わたしの感覚では、「コンピュータ」の方がふつうの表記です。逆に「コンピューター」では、年寄りくさく感じられます。実際に、「コンピュータ」の方が近年では優勢なのではないかとも思います。これは、コンピューターがわたしたちの日常生活に深く入り込んできた結果、長音記号をつけない工学・技術系の慣用が一般化してきたということでしょう。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

「二人組」は「ににんぐみ」ですか？「ふたりぐみ」ですか？

こたえ

現代語では、「ににんぐみ」と「ふたりぐみ」の両方の読み方が行なわれているようですが、単にグループの人数をいう場合には「ににんぐみ」と読むほうがいいのではないかと思います。「二人称」「二人三脚」のように数を区別する意識があるときには「ニンニン」となります。とはいえ、「ふたりぐみ」が間違いということではありません。実際に、漢数字と和数字の使い分けには不規則な点も多く、簡単ではありません（→「[『四（シ）』と『四（よん）』はどう使い分けるのですか？](#)」）。同様の問題に「一人前（イチニンまえ／ひとりまえ）」があります。

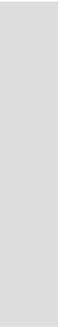
現在の意識では、「ににんぐみ」がマイナスのイメージ、「ふたりぐみ」が中立もしくはプラスのイメージという傾向があるようです。これは、テレビのニュースで「二人《ニンニン》組の強盗」や「二人《ニンニン》組の犯人」と読まれることが影響していそうです。放送用語では、おおむね「ニンニンぐみ」と読むことになっているようです。これは、「三人《サンニン》組」「四人《ヨニン》組」……と語形を統一しようということかと思われます。また、仲が良いというイメージの「二人《ふたり》連れ」などの言い方も、相対的に「ニンニンぐみ」をマイナスのイメージにしているのかもしれませんが。なお、辞書の見出し語を調べると、能や狂言の曲名に「二人」が含まれるときは「ふたり」、歌舞伎の演目では「ニンニン」となる傾向があるようですが、くわしい理由はわかりません。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)



[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

「国訓」は「訓読み」と同じ意味と考えていいですか？

こたえ

「国訓」という語には、主に二つの意味があります。ひとつは、意味の共通する和語をあてた漢字の読み方（訓読み）という意味で、「字訓」や「和訓」と同じ意味です。もうひとつは、もともとの意味とは無関係に日本で独自の和語をあてた漢字の読み方という意味です。ナマズの意味である「鮎」を〈あゆ〉、ヒノキの意味である「柏」を〈かしわ〉、ウナギの意味である「鰻」を〈かつお〉とするなどがその例です。後者の意味では、国字（畑・峠・働・鰯など漢字にならって日本で造字された字体）に近いものであるといえます。

訓には、一般に「正訓」と「義訓」（熟字訓）とが区別されます。「山・やま」「川・かわ」などの通常の訓を正訓、「小豆・あずき」「田舎・いなか」など意味の上から全体をひとつの訓として読むものを義訓（熟字訓）といいます。後者は、いわゆる宛字のような遊戯性・技巧性の強いものとなることもあり、その場合を特に「戯訓」と呼ぶことがあります。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)



[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまともてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

「交じる」と書くのに「交じわる」と書かないのはなぜですか？

こたえ

動詞を漢字で表記する場合の「送り仮名」の基本は、（活用）語尾を送るということです。しかし、語尾を送った場合、次のような語では、ほぼ同じ意味を示している漢字の読みが一定しなくなってしまう。

語尾を送った場合

	語	語幹・語尾	語尾を送る場合	漢字が担う音
「集」	あつまる	あつま・る	集る	集＝あつま
	あつめる	あつ・める	集める	集＝あつ
「浮」	うく	う・く	浮く	浮＝う
	うかぶ	うか・ぶ	浮ぶ	浮＝うか

このような場合は、漢字（同じ意味を示す漢字）が同じ読みになるように余分に送り仮名を送ることになります。上の例では、以下のように書くのが規範的な送り方（『[送り仮名の付け方](#)』の通則2の本則に従った送り方）です。

規範的な送り仮名

	語	送り仮名の付け方	漢字が担う音
	あつまる	集まる	集＝あつ

「集」	あつめる	集める	集=あつ
「浮」	うく	浮く	浮=う
	うかぶ	浮かぶ	浮=う

但、このような送り仮名の問題は、派生的な関係にある語（もともとと同じ語であると推定できるもの）の間で生じるものです。「まじる」と「まじわる」とは、もともと別の語であると考えられるもので、通則2による送り方の問題は生じません。実際に『送り仮名の付け方』では、「まじる」「まざる」は「まぜる」との対応で、「まじわる」は「まじえる」との対応で、上記の問題（通則2による送り方）を生じるものとされています。具体的に示すと、以下のようになります。

「まじる」と「まじわる」

	語	語幹・語尾	規範的な送り方	漢字が担う音
「まじる」の系列	まじる	まじ・る	交じる（混じる）	交(混)=ま
	まざる	まざ・る	交ざる（混ざる）	交(混)=ま
	まぜる	ま・ぜる	交ぜる（混ぜる）	交(混)=ま
「まじわる」の系列	まじわる	まじわ・る	交わる	交=まじ
	まじえる	まじ・える	交える	交=まじ

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～文字・表記～

質問

濁点を右上に付けるのはなぜですか？

こたえ

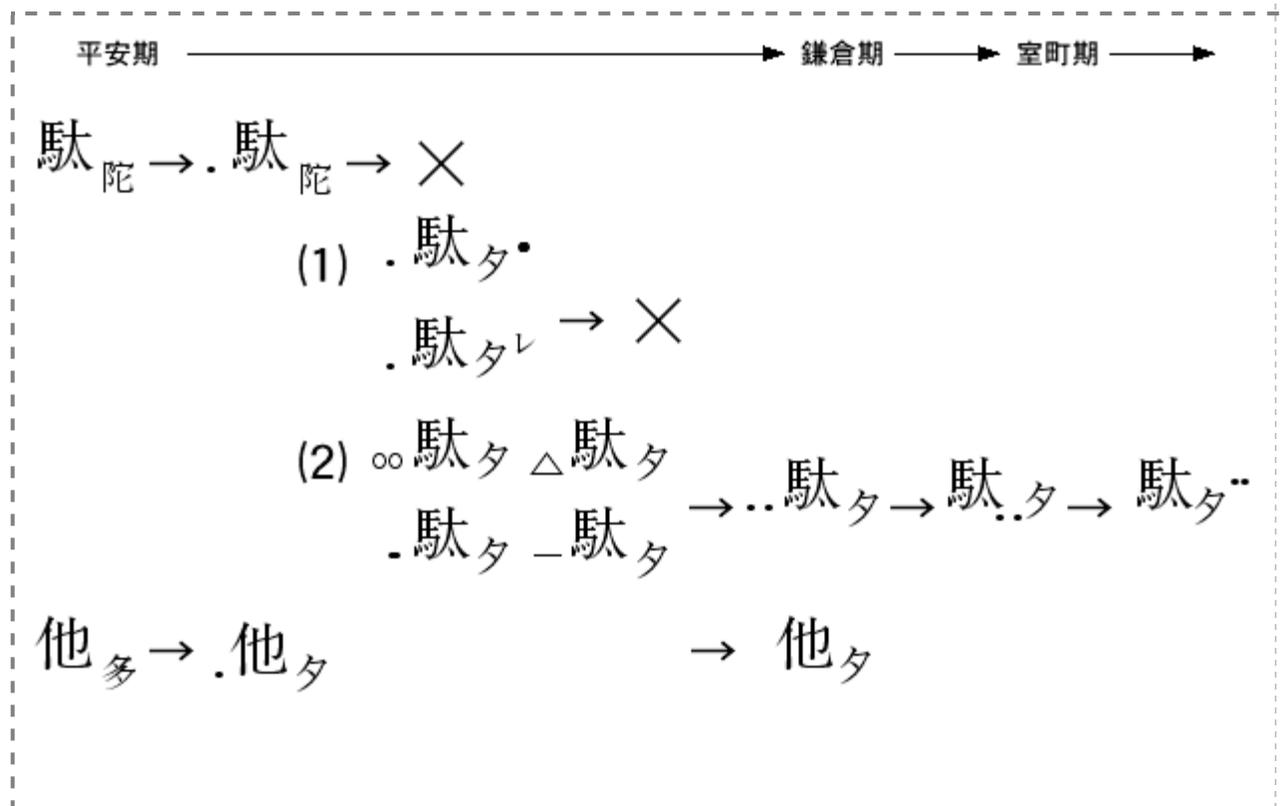
濁音は、もともと音韻として独立していなかったと考えられており、中古・中世では、平仮名・カタカナに清濁を区別していません。濁音に濁点をつけるようになったのは室町期のことです。すべての濁音に濁点をつけるようになるのは室町末期以降のことだといわれています。また、同じ時期に濁音が音韻として独立したと考えられています。

中世以降、漢字音を書き分けるため、まれに濁音仮名（濁音を表す万葉仮名）の例が見られます。これは、漢文訓読の場で、漢語の音声を正確に記述するために用いられたものです。しかし、漢文訓読でルビとして使う便宜から、万葉仮名を省画化したカタカナが作られたのに対して、濁音仮名は使用頻度が低かったため省画化されませんでした。そのため、画数の多い文字を使うという非効率性と、省画体（カタカナ）と非省画化（万葉仮名）とが共存するという非体系性が嫌われ、濁音仮名は消えてゆきます。

濁音仮名が消滅するなかで、漢文訓読での濁音表記の方法として、主に(1)カタカナへの有標符号の付加と(2)漢字のアクセント記号である声点記号を変形する方法（＝濁声点）とが採用されてゆきました（鏡文字を使う、「濁」の字を添えるという方法もあったようです）。なお、濁声点では、例えば、声点記号の「●」を「●●」、「△」、「ー」などに変形しました。これらのうち、(1)の方法は、仮名に有標符号をつけ・さらに漢字に声点をつけるという二度手間が嫌われたためか、あまり行なわれなくなってい

きます。その結果、(2)の方法（中でも特に「●●」の方式）が生き残りました。その後、漢文訓読において漢字のアクセント表記の必要性が減少し、声点が付されなくなってゆく（1150年ころ？）に連れ、濁声点がルビであるカタカナにつけられるようになっていきました。

以上のおおまかな説明を図に表すと、次の図表のようになります（沼本 1992 を一部改変）。



もともと漢文訓読では、アクセント表記の声点を、ルビであるカタカナに付すことがありました。ただ、その場合は^トのように必ず左側に高低を示していました。カタカナの右側はアクセント符号の付されることのない場所だったわけです。そのため、濁音を表す符号をカタカナにつける場合に、アクセント表示と誤解されないように（あるいはより積極的に濁点であることを表わすために）右側につけるようになりました。右側といっても、文献では右上・右中・右下のいずれの例も見られます。しかし、次第に右上が優勢になり、右上に統一されることとなります。これは、右手で文字を書く人が圧倒的に多かったからではないかと推測されます。結局、濁点が付される右上は、右手で字を書く場合にもっとも書きやすい位置だったのです。（参考文献：沼本 1990,1992 など）。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまともてあります。

にほんごの質問

～その他～

質問

漢字は全部で何字あるのですか？

こたえ

わかりません。字源や異体字の認定のしかたによって、かなり数が変わってくると考えられます。なお、『康熙字典』には約47000字、諸橋轍次の『大漢和辞典』には約50000字の漢字が掲げられているといわれますが、実際に使われる漢字はずっと少ないものです。一般に、成人日本語母語話者の漢字の知識は3500字程度といわれています。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「結婚+する」や「テニス+する」みたいに、名詞に「する」をつけると動詞になることがあるよね。で、その「する」の前に来る名詞は、なにか制限、あるいは規則みたいなものがある？

こたえ

基本的に、意味の上で〈動き〉を含む名詞が「する」と結びついて動詞になります。「料理」と「ご飯」とは、「料理を食べる」「ご飯を食べる」のように（ほぼ同じ意味の）「モノ」を表わすことがあります。しかし、「料理」は「料理する」になりますが、「ご飯」は「*ご飯する」とはなりません。これは「料理」に、〈動き〉（行動・動作）の意味が含まれるからだと思います。つまり、「料理を食べる」は、「料理（をすることによってできあがったもの）を食べる」ということができるでしょう。「（部屋を）冷房する」とはいえども、「クーラーする」「エアコンする」といえないのも、「冷房」には「（「房」＝部屋を）冷やす」という〈動き〉の意味が読みとれるのに対して、クーラーやエアコンは「モノ」としての意味しか感じられないからでしょう。

しかし、意味の上で〈動き〉を含む名詞であっても、すべて「～する」となるわけではありません。「自動」という語は「自分で動く」という意味ですが、「自動する」とはいいません。ふつうは、「自分で動く」とか「ひとりでに動く」「放っておいても勝手に動く」などと表現されます。これは、語として表現するよりも句や文として表現することが選ばれるということでしょう（「自動化する」という言い方はできます。この場合は「化」という接尾辞が「『ひとりでに動く』ようにする」という形で動作性を付

与しています)。

これと関連した問題に、連用形名詞による動作の表現があります。わたしたちは、「引っ越す」や「引っ越しする」という「語」ともに「引っ越しをする」という「句」の形を意外に多く使います。「結婚+する」や「テニス+する」も「結婚をする」「テニスをする」とも良く言います。「～する」という形と「～をする」という形のどちらが一般的かは、語によって違うようです。また、公的な場面や文脈では「～をする」が良く現れ、「～する」では違和感がある場合もあると思います。これは、「～する」が「を」の省略という意識が働くからでしょう（実際には、「～する」が必ずしも「を」の省略であるわけではありませんが、そう意識されやすいようです）。（参考文献：劉2000など。）

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

“のめりこむ”と“はまる”は意味上かなり似ているけど、違いはなに？

こたえ

「のめりこむ」は、本来〈前かがみに倒れる〉という意味なので、深い考えなしに何かを始めて、結果として深く入り込んでしまう（熱中してやめられなくなってしまう）意味です。あまり良くない意味で使われることが多いでしょうか。例えば、「ギャンブルにのめり込む」、「仕事もせず野球にのめり込む」のようにです。

「はまる」は、もともと、〈（何かに）ぴったりと入る〉とか、〈穴に落ちる〉とかいう意味です。そこから「罫《わな》にはまる」とか「悪事にはまる」とかというように、〈（何らかの行為の結果として）身動きがとれなくなる〉という意味で使われるものです。こちらもあまりよくない意味で使われることが多いでしょう。ただ、最近は、自分の感覚や嗜好に〈ぴったりする〉（非常に良く適合する）ということから、〈熱中する〉のような意味でもつかいます（俗語的な言い方）。この場合には、特に悪い意味合いとは限りません。（良くも悪くも）とにかく夢中で熱中しているという意味でしょうか。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)



[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「彼はできるかぎり明るい人と友達になりたい」と「彼はできるだけ明るい人と友達になりたい」。どうも上の方がキツイと思うのは気のせいですか？

こたえ

実際に「できるかぎり」の方が意味が強いでしょう。「できるだけ」には、「なるべく」「もし可能ならばその範囲で」などの意味がありますが、「できるかぎり」は「能力や状況の範囲で最上の（最善の）」ということになります。

たとえば、「できるだけ早く来てください。」とはいえますが、「できるかぎり早く来てください。」は、（文法の間違ひはありませんが）言いにくい感じがします。「できるかぎり早く来てください。」と言われた場合、「とにかく早くこい」といわれている感じがします。これは、相手（聞き手）に不要な負担をかけるため、丁寧な表現とはいえません。

ただ、「できるだけ努力はしたが、だめだった。」と「できるかぎりの努力はしたが、だめだった。」では、それほど意味合ひの違いは感じられません（ただ、「できるだけ」が口語的なものに対して、「できるかぎり」はより文章語的な語感があります）。したがって、「できるだけ」は文脈に応じて、「もし可能ならばその範囲で」という比較的弱い意味から「能力や状況の範囲で最上の（最善の）」という強い意味までをあらわし、「できるかぎり」は「能力や状況の範囲で最上の（最善の）」という強い意味を持つといえるのではないのでしょうか。「できるかぎり」の「限り」は文字通り「限界ま

で」という意味です。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「すごい、素晴らしい、えらい」の違いは何ですか？

こたえ

「すごい」には大きくわけて3つの意味があります。

- 非常に程度が大きい
- 恐ろしいぐらい程度が大きい
- 怖い・気味が悪い

以下に、例文を示しておきます。

- 「すごい力持ちだ。」 「すごい美少年だ。」 「大勢の人ですごい混雑だ。」
- 「台風ですごい風が吹いている。」 「彼女は相変わらずすごい食欲だ。」
- 「すごい表情でにらまれた。」 「すごい目つきだ。」

副詞的な用法では「すごく」の形も使います（例：「彼は走るのがすごく速い。」）。また、(1)と(2)に意味は良く似ていて、どちらにあてはまるのか判断できないものもあるでしょう。基本的には、(1)は「常識で考えられないくらい～～だ」という気持ちです。(2)は、「あまりに程度が大きく恐ろしくなるくらい～～だ」という気持ちです。これらの意味での「すごい」は、文脈によってプラスの評価にもマイナスの評価にもなります。また、(3)は、本来の意味（古典語での意味）に最も近い用法です。

「素晴らしい」には大きくわけて2つの意味があります。

客観的に見て優れている

主観的に見て好ましい

これも、以下に例文を示しておきます。

「彼女の成績は素晴らしい。」 「素晴らしい論文だ。」

「素晴らしい天気だ。」 「素晴らしい景色だ。」

副詞的な用法では「すばらしく」も使います（例：「すばらしく晴れている。」）。(1)の意味での「すばらしい」は、プラス評価です。また、(2)の意味での「すばらしい」も文脈に関係なくプラス評価です。例えば、「素晴らしい天気だ。」という場合は、実際の天気が晴れでも雨でも曇りでも、発話者にとって好ましい天気（プラス評価）だということを表わしています。

「えらい」には大きくわけて3つの意味があります。

人物の地位や評価が高い

程度が大きい

重大だ

これも、以下に例文を示しておきます。

「えらい先生だ。」 「会社のえらい人に話を聞く。」

「駅がえらい混雑している。」 「彼がえらい勢いで走ってきた。」 「えらい大きな声が聞こえる。」

「政治家の逮捕でえらい騒ぎになっている。」 「約束を忘れてえらいことになった。」

副詞的な用法では（人によっては）「えらく」という形も良く使います（例：「えらく混んでいる。」）。(1)の意味での「えらい」は一般にプラス評価ですが、それ以外の意味では中立かどちらかといえばマイナスの評価になります。特に(3)の意味での、〈重大なこと〉には（困難な問題がおこっているなど）あまり好ましくない場合が多く、マイナスの評価になりやすいといえます。また、(2)の場合も〈事柄の重大性〉という意味合いを含んでいます。つまり、「彼がえらい勢いで走ってきた。」というのは〈何か重大な問題があつて急いでいる〉という意味を持ちます。

まとめ

すごい

「程度」の大きさをあらわす。文脈でプラス評価にもマイナス評価にもなる。「常識を超えた」「恐ろしいほど」という気持ちをあらわす。

すばらしい

「評価」の大きさをあらわす。基本的にプラス評価。主観的に使われると「好ましい」状況をあらわす。

えらい

「程度」の大きさをあらわす。中立かマイナス評価のことが多い。「事柄の重大性」という意味を含むことが多い。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「明太子」と「たらこ」の違いは何？

こたえ

タラ（スケトウダラという種類が多いようです）の卵（腹子）を塩で漬けたのが「たらこ」、さらに唐辛子を加えて漬けたのが「明太子」です。「明太」は朝鮮語でスケトウダラのことです。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまともてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「先生」と「教師」はどう使い分けるのでしょうか？

こたえ

「教師」は、主に学校で職業的にものを教える人です。

例：「私の職業は高校の教師です。」

一方、「先生」は、ものを教える人を一般的に指します。

例：「今日は、お花の先生（＝茶道を教える人）に会いに行きます。」

また、弁護士・政治家や医師などは「先生」ですが「教師」ではありません。

例：「弁護士の先生／＊教師に相談する。」、「衆議院議員の〇〇先生／＊教師」、
「内科の先生／＊教師」

また、「先生」と「教師」の違いに、呼びかけができるかどうかということがあります。「先生」は呼びかけに使えますが、「教師」はダメです。

例：「先生／＊教師、さようなら。」

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

「どうして／なんで／なぜ」はどう使い分けますか。また、ある学生は「前の日本人の先生に、日常会話では“どうして”は使いませんと教えられました」といっています。本当ですか？

こたえ

用法の違いは（例えば、「どうして」に「どのようにして」という意味があるなど）ありますが、原因や理由を問題にするという点に関していえば、意味に大きな差はないように思います。

ただ、語感には差があり、（私の場合は）「なぜ」が文章語的でやや丁寧、「なんで」が口語的でややぞんざい（目上には使いにくい）であると感じます。また、日常の会話では「なんで」をもっともよく使っているように思います。話しことばで「どうして」というと、「なんで」よりも形式的な感じ、あるいはやや年長の人のような印象があります。

□日常会話では“どうして”は使いません□ということはないと思います。ただ、「どうして」はやや形式的な語感のある語なので、日常会話で使うと違和感を感じる人がいるということはあるかもしれません。例えば、日常的なおしゃべりで「昨日どうして来なかったの？」という、「約束していたはずでしょ？」とか「来なかったのは良くない！」などと非難している意味に受けとられてしまうかもしれません。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「言う／話す／しゃべる」の違いは何ですか？

こたえ

一般的な意味を辞書的に記述すると次のようになります（参考：『基礎日本語』など。なお、質問の語以外に関連する語も含めました）。

「いう」

口頭で表現する
（手段を問わず）表現する
音がする
名付ける

「はなす」

（まとまった内容を）口頭で表現する
会話する

「しゃべる」

口頭で表現する
（望ましくない状況で／事柄を）口頭で表現する

「かたる」

(まとまった内容や感情を) 言語的に表現する
物語る (伝える・示す)

「のべる」

(思考の内容を) 言語的に表現し展開する
陳述する

次に、具体例を見ていきます。

- 「おはようと いう／*はなす／*しゃべる」
→ 「いう」は、短い単位にも使えるが、「はなす」「しゃべる」はある程度まとまった長さがないと使えない
- 「寝言を (文句を／独言を／言い訳を) いう／*話す／??しゃべる」
→ 「はなす」「しゃべる」は、一方的な伝達には使いにくい
→ 「はなす」は協調的な行為で、「いう」は一方的な行為になる
- そのため、「二人で話す」と「二人でしゃべる」とは〈二人で互いに話をする〉という意味になり、「二人で言う」は〈二人が同時にあるいは協力してそれ以外の人にもものを伝える〉という意味になる
- また、「二人で話しあう」は〈相談する・議論する〉意味になり、「二人で言いあう」は〈口論する・けんかする〉意味になる。「しゃべる」にはもともと〈雑談をする〉という意味合いがあるので、「*二人でしゃべりあう」とはいえない
- 「今日あったことを全部 いいなさい／はなしなさい／しゃべりなさい」「事情をくわしく話しなさい／?言いなさい／しゃべりなさい)」
→ 「いう」よりも「はなす」の方が説明的な意味合いになる。これは、「はなす」が短い単位には使えないためと思われる
→ 「しゃべる」を使うと俗な感じになる (スタイルが低い)。例えば「秘密をぺらぺらとしゃべるな!」「よくしゃべる男だ。」「しゃべってばかりいないで仕事をしなさい。」のように、「しゃべる」には、マイナス評価が含意されることが多い
- 「この文章の筆者が いう／*はなす／*しゃべる ところでは～」
→ 「はなす」「しゃべる」は書きことばには使えない (口頭での表現に限られる) が、「いう」は書き言葉の客観的な表現についても使える
- 「おなかがグーグー いている／*はなししている／*しゃべっている。」
→ 「いう」には、〈音がする〉という意味もある

- 「資格がものを いう／＊はなす／＊しゃべる 世の中だ。」
→ 「いう」は、言語以外の表現方法・手段に対しても使える
- 「それが日本と いう／＊はなす／＊しゃべる／国です。」
→ 「いう」には、〈名付ける〉という（または名付けられたものを指す）意味がある

参考までに、「かたる」「のべる」についても見ておきます。

- 「この文章の筆者が かたる／のべる ところでは～」
→ 「かたる」「のべる」は、ともに書きことばに対して使える
- 「おはようと ＊かたる／？のべる」
→ 「かたる」「のべる」は、ある程度まとまった長さがないと使えない
- 「二人で かたる／のべる。」
→ 「かたる」よりも「のべる」の方が、一方的な行為という語感がある
そのため、「二人でかたりあう」というと、二人で会話をする意味になる。
（お互いをまったく無視しているように感じられるため）「？二人で述べあう」とはいにくい。
- 「金田一が論文でそう ？かたっている／のべている。」 「筆者多いに かたる／？のべる。」 「自分の経験を かたる／のべべる。」
→ 「かたる」は、〈感情や心情の表出〉という主観的な要素が強いので、そのため、論理的な内容を伝えるときには使いにくい
たとえば、「話しあう」と「語りあう」とを比較すると、「話しあう」は論理的に議論する意味になり、「語り合う」は心を開いて気持ちを伝えあうという意味になる
一方、「のべる」は、〈思考の内容を言語表現として展開する〉という意味をあらわすので、主観的・感情的な内容を伝えるときには伝えにくい。「自分の経験をかたる。」というときには、気持ちを込めて伝えるという意味合いになり、「自分の経験を述べる。」というときには、論理的・客観的に伝える意味合いになる。
- 「事実がそう かたっている／＊のべている。」
→ 「かたる」は、言語以外の表現方法・手段に対しても使える。また、「語る」は「物語る」の意味も持つ。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)



[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

普通人の名前を丁寧に言うときは「さま」をつけるけど、じゃ「殿」はいつ使いますか？

こたえ

□人の名前を丁寧に言うとき□に「殿」と言っではいけません。現在の日本語では、「殿」の敬意はほとんどないといって良いくらいで、目下の者に対する手紙などでも「様」とするのが普通になっています。

「殿」の使用場面は、事務的な書面くらいでしょうか。事務的というのは、例えば、会社あての書類や添え状（カバーレター）に「総務課課長殿」と職位につけて書くということです。また、役所などの行政機関が個人宛に出す書面の宛名が「殿」であることもあります。最近では「様」も増えているようです。医者や処方箋薬局が出す薬袋も、昔は「殿」でしたが、最近では「様」となっています。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「溶ける」と「とろける」の違いは何ですか？

こたえ

これは、少しややこしいのですが、「溶ける」・「融ける」（とける：漢字は違うが同じ意味）・「蕩ける」（とろける）の違いは以下のようなになるでしょう。

- 固体が液体になる：「とける」
- 固体がやわらかくなる：「とける」・「とろける」（「とろける」の使用範囲は限定的）
- 金属が液体になる：「とける」・「とろける」
- 固体が液体と混合する：「とける」

具体的には、次のようになります。

- 雪がとける/*とろける
- チョコ（水あめ）がとける/とろける [=完全に液体にはならない]
- 炉の中で鉄がとける/とろける [=「とろける」はやや俗な語感]
- 砂糖がコーヒーにとける/*とろける

したがって、「とける」は完全に液体になるが「とろける」はそこまでいかない（固体がやわらかくなった状態）ということになるでしょう。

また、「とろける」には、「かつていい男に心もとろけるほどうっとりする。」のよ

うな用法（心を奪われるという意味）があります。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまともてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「やり方」と「しかた」の違いは何ですか？

こたえ

「しかたがない」のような連語や「しかたない」のような形容詞形は「やりかた」にはありません。また、「～の...」というときには「しかた」と続くことが多く、「やり方」は単独で使われることが多いように思います。ただ、「うまくできないのは、お前のやり方が悪いんだ。」のように「～のやり方」と言えないわけではありません。

「しかた」と「やりかた」とは、動詞の「する」と「やる」の違いに対応した意味合いや用法の違いがあるように思います。以下に、少し考えてみます。

「する」も「やる」も（動作性の）名詞を受けて〈主体が状況を成立させる〉という共通の意味をあらわします。「みんなでサッカーをする。」と「みんなでサッカーをやる。」とは、どちらも、主体である〈みんな〉が〈サッカー〉という状況を成立させるという意味です。よりわかりやすい言い方をすれば、〈ものごとを行なう〉という意味だとえます。ただ、次の用法には共通性がありません。

- 名詞を動詞化する機能＝運動する／矛盾する（*やる）
- 物や人を変化させる意味＝部品をバラバラにする／子供を医者にする（*やる）
- 行かせる・移動させる意味＝手紙をやる／息子を大学にやる（*する）
- 状態性名詞を受けて状態・性質を表わす＝空が青い色をしている（*やる）
- ある状態になる意味＝病気をやる（*やる）

- 授受表現＝娘に小遣いをやる／植木に水をやる（*する）
- その他の用法＝〔値段や数量を表す〕3万円もする本（*やる）、〔何かに決める意味〕僕はウナギにする（*やる）、〔身につける意味〕ネクタイをする（*やる）

また、「やる」には、特定の動詞（句）の代わりにするという機能があります。「煙草をやる〔＝好んでのむ〕。」「今の給料ではやっていけない〔＝安定して生活していけない〕。」「競馬ですいぶんやられた〔＝負けて損をした〕。」のように使われます。この場合、「やる」が代行する動詞（句）は、主に慣用的なものですが、直接は表現にくい事柄が多いといえます。そのため、以下のような解釈の傾向があると思います。

- 「彼は、今、何をしてるの？」→現在の動作・行動を質問している
- 「彼は、今、何をやってるの？」→現在の、職業（ちゃんとした職についているかどうか）を質問している

〈主体が状況を成立させる〉という意味での「する」と「やる」との違いは、「やる」の方がくだけた表現（俗語的）で、意志性がより明確だと考えられます。

- 「息をする／あくびをする（*やる）」
→無意識で無意志的な動作は「やる」ではあわせない
- 「彼には才能はないが、やる気（?する気）がある」
→「やる」の方が意志性が強く現れる（参考：補助動詞「きっと合格してやる」）

そのため、「やる」には文脈の制限が強く、「する」の方がより多くの語に一般的に接続することになります。

以上のことから、「しかた」と「やり方」とは、〈行為や行動の方法〉という点では共通していますが、「やり方」の方が意志性が強いといえそうです。

- 「何と言われようと、これが俺のやり方なんだ！」
→強い意志をあらわしていると考えられる
- 「やり方（?しかた）がわかりません。」「そんなやり方（?しかた）ではダメだ！」
→「やり方」には〈何かを行なう意志があること〉が前提されているので、それが文脈となり、具体的な状況を伴わずに使っても違和感がない。この場合、「しか

た」では文脈がよくわからない。

また、「しかた」の方が、より多くの文脈で使うことができます。これは「する」の方が一般的に用いられるのと同じです。

- 「説明のしかた（?やり方）が悪い。」
→「やり方」には語彙的に結びつきにくい語が多い（文脈の制限が強い）。

なお、すでに述べたように、「やる」は〈ある状態になる意味〉を表わさないで、〈ある状態になる手段〉という意味で「やり方」を使うとおかしくなります。

- 「動詞との接続のしかた（*やり方）に違いがある。」

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「やばい」と「まずい」の違いは？お互い使えない場面はあるのでしょうか？

こたえ

「やばい」は「危険だ」「危うい」という意味と、「都合が悪い」という意味があります。「まずい」にも「都合が悪い」という意味があります。「まずい」にはおいしくない意味がありますが「やばい」にはありません。また、「まずい」には「下手な」という意味がありますが、「やばい」にはありません。「まずい」は、他にも「車の運転がまずい」（へたくそだ）、「まずい文章」（低級な文章）などのように使えます。

「やばい」はこのようには使えません。

- まずい料理→おいしくない
- ??やばい料理→食べたら病気になりそうな料理？（※但、「やばい料理」は、やや無理のある表現だと思います）
- まずい仕事→いい加減でへたくそな仕事
（例：まずい仕事をするな。[きちんとやれという意味]）
- やばい仕事→犯罪行為にからむなどのあやうい仕事
（例：やばい仕事だけに報酬が良い。）

「都合が悪い」という意味では、「やばい」のほうが困難の度合いが大きい感じがします。

- 「今日中に終わらないとまずい。」→「好ましくない」という意味合い
- 「今日中に終わらないとやばい。」→「困ったことになる」という意味合い

そのため、

- まずい場面→好ましくない（例えば、自分に不利な）場面
- やばい場面→危険な（自分の身体に危害が及んだり、立場が危うくなる）場面

という感じになります。「今、やばかったな。」とか言えば、危機一髪だったという意味になります。「今、まずかったな。」ではそこまで深刻な意味にはなりません（「あまりよくなかったな」という程度の響きです）。

また、「やばい」は、低いスタイルでしか使えません。「まずい」も丁寧な言葉ではありませんが、日常の話しことばの中であれば普通に使って構わないでしょう。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「知ってる」と「分かってる」の違いは何ですか？

こたえ

「知る」と「わかる」の基本的な意味から考えてみましょう。辞書的に記述すると次のようになります（参考文献：『基礎日本語』など）。

「知る」

知識・情報・経験の獲得

理解する

(…テイルの形で) 知識・情報・経験の所有

(…テイルの形で) 記憶する

「わかる」

事柄の実態を理解する

実態を解明する

判明する

判断する

識別する

「知る」の例文

- その時に、ことばの意味を／彼のことを／酒の味を知った。（知識／情報／経験の獲得）
- 一を聞いて十を知る。（理解する）
- 方程式のときかたを／試合の勝敗を／人生の悲惨さを知っている。（知識／情報／経験の所有）
- 君の名前を（彼の電話番号を）知っている。（記憶として保持）

「わかる」の例文

- 違いが／日本語が／人の心のわかる男だ。話せばわかる。（事柄の実態の理解）
- 辞書を引けばわかる。癌発生のメカニズムがわかる。（実態の解明）
- 事故の原因が／彼におこられた理由がわかった。（判明）
- 行くかどうかわからない。（判断）
- 暗くてどこに何があるかわからない。あの人なら本物か偽物かわかるはずだ。（識別）

ここで、「知る」と「わかる」の違いは、次のように考えられます。

例えば、「よく知らない人」とは、〈面識のない人・どこの誰か不明な人物〉という意味ですが、「よくわからない人」というと〈面識はあるが不思議な人／変わった人〉ということになります。つまり、〈未知の事実が既知になる〉のが「知る」で、〈既知の事実の本質に達する〉のが「わかる」です。そのため、「考えればわかります。」とはいっても「*考えれば知ります。」とはいえません。

また、「これからどうなるかはいずれわかりますよ。」とはいえますが、「??これからどうなるかはいずれ知りますよ。」はおかしな表現です。「わかる」には、無意志的な作用という意味合いが含まれるからです。「これからどうなるかはいずれわかりますよ。」という文は、〈意志的に理解しようとしなくても自然に理解可能になる〉という意味です。一方、「知る」には、意志的な動作という意味合いがあるものと考えられます。

また、「知る」と「わかる」には文法（語法）上の違いも見られます。

「わかる」は、自動詞の状態動詞であり、「が」格をとります（例：「答えがわかる。」）。規範的には、「わかりたい」「わかられる」「わかりうる」とはできません（ただし、実際には、「知りたい」を強調した表現として「わかりたい」が使われるこ

とがあります。例「わかりたいなら、この本を買って勉強しなさい。」）。一方、「知る」は、他動詞の動作動詞であり、「を」格をとります（例：「答えを知る。」）。また、希望（「知りたい」）・受身（「知られる」）・可能（「知りうる」）の形にできます。

「知る」を動作動詞であるといいましたが、「知る」は瞬間的な動作をあらわす語です。そのため、相手の知識や記憶を問うときに「*～を知りますか？」ということではできません。「知っていますか？」とテイル形にする必要があります。「知る」は、テイル形で使われたときに〈知識・情報・経験を持っていること〉を表わすのです。例えば、「夏目漱石を知っていますか？」という文は、夏目漱石に関する知識を持っているかどうか質問しています。この場合の「...テイル」は、結果の状態の存続を示しているものと考えられます。

注意しなければならないのは、「知る」は、テイル形の否定ができないということです。「*知っていない」とはいえません。そのため、「知っていますか？」という質問に否定で答える場合は、「いいえ、知りません／*知っていません。」ということになります。一方、「わかる」は「わかりますか？」とも「わかっていますか？」ともいうことができます。に対しては、「わかりますか？」には「わかる／わからない」、「わかっていますか？」には「わかっている／わかっていない」と答えることになります。

「知る」		「わかる」	
質問	答え	質問	答え
×	×	「わかりますか？」	「はい。わかります。」 「いいえ。わかりません。」
「知っていますか？」	「はい。知っています。」 「いいえ。知りません。」	「わかっていますか？」	「はい。わかっています。」 「いいえ。わかっています。」

また、「知っている」は、〈知識を持っている＝記憶している〉ことをあらわすだけではありません。〈情報を持っている〉場合にも、「知っている」ということができます。ですから、「光一君の電話番号を知っていますか？」という質問に、「はい。知っていますが、今はちょっとわかりません。」のように答えることができます。これは、例えば、電話番号を書いた紙を持っているけれども記憶（暗記）はしていない（今は、

電話番号を書いた紙が手もとにないので教えることができない) ということを行っています。「知っている」けれども「わからない」ことがあるのです。

一般に、知識は「知る」ことから「わかる」ことへと深まってゆきます。そのため、「知っている」は、既知であることを示しますが、「わかっている」は既知の事実の本質を掴んでいる（深く理解している）ことを示します。例えば、「知っているつもり」は、十分な量の知識があると思っている状態を指し、「わかっているつもり」は、知識の内容を十分に理解していると思っている状態を指します。

まとめていうと、

- 「知っている」＝あることがらを知識として保持した状態にある
- 「わかっている」＝あることがらの本質を理解した状態にある

ということになるでしょうか。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「いく」と「ゆく」の違いは何ですか？

こたえ

「いく」と「ゆく」とは、上代（奈良時代）から両形が用いられてきました。当時の用例では「ゆく」が圧倒的に多数ですが、「いく」の例もあります。『万葉集』では「いく」の系統に、「伊可（行か）」が2例、「伊加（行か）」が3例、「伊久（行く）」、「伊気（行け）」各1例の計7例が確認されます。

古語での「いく」と「ゆく」との使い分けに関しては、「いく」を主に意志的な動作に使い、「ゆく」を主に自然な事象の推移に使うと見る考えがあります。しかし、万葉集に「我が兄子《せこ》は玉にもがもな手に纏《ま》きて見つつ行《ゆ》かむを置きて往《い》かば惜し」（巻十七3990：表記は『校注国歌大系』による）という例（同じ歌に両方の形があるもの）があり、確実なことはわかりません（但、東歌などに「いく」が見られることから、「ゆく」より「いく」が卑俗なイメージを持っていたのではと推測することはできます）。

また、「いく」の方が歴史的に新しい形だという説があるものの、逆に「いく」を古形とする解釈もあり、歴史的な発生の先後関係についても確実なことはわかりません。

「いく」と「ゆく」との違いは、意味や発生においては明確にできませんが、「ゆく」に促音便の「ゆって」という形がない（但、訓点資料ではイ音便の「ゆいて」の例があります）という点では明らかです。「いく」に促音便の「いって」があり、「ゆ

「く」にないということは、両者が異なる環境（ジャンルやスタイル）で用いられる傾向があったことを示しています。音便に関しては、和歌で他の文章より例が少なく、訓点資料（漢文）で特殊な形（特殊な音便形）が使用されるなど、ジャンルによって現われ方に違いのあることが知られています。また、文章語と口頭語とのスタイルの違いによっても音便形の出現に違いがあると考えるのが自然です。音便は、より発音しやすい形へと語形が変化する現象と見なしうるものですから、音便形の有無は口頭語での使用頻度を反映するものと推測することができるのです。

実際に、「いく」と「ゆく」との用例を見ると、室町時代を過ぎるまでは「ゆく」が一般的で、特に和歌や訓点資料（いわゆる漢文体の書き言葉）では「ゆく」が圧倒的に多くなっています。逆に、中古の和文系の資料（源氏物語など）では「いく」の例もかなり見られます（ただ、全体的には「ゆく」が優勢です）。その後、近世になると、「いく」は口頭語を中心に用いられるようになり、次第に「ゆく」を凌駕してゆきます。現代語でも「いく」がより口頭語的だという語感があると思われます。そのため、現代語でも「去りゆく（季節）」「散りゆく（桜）」など文章語的な色彩の濃い表現では「ゆく」が使われ「いく」とはいえません。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

最近、テレビなどで「かつぜつ（が良い／悪い）」ということばを耳にしますが、辞書に載っていません。どういう意味の語でしょうか？

こたえ

「かつぜつ」について、辞書の記述がどのようになっているかを、収録語数の大きな辞書を中心にしてみると、おおよそ以下のようになっています（ここでは国語辞典だけをとりあげました）。

『大辞典』1935年・平凡社 [1974年に復刻縮刷版]

見出し語になし（※「かつぜつ」の項目には、「刮舌・舌の垢を除き去る具」がある）

『広辞苑』1955年・岩波書店

見出し語になし

『大言海』1956年・富山房 [1982年に表記と排列を整理した新編大言海として改版]

見出し語になし

『言林』1961年・小学館

見出し語になし

『新字源』1963年・保育社

見出し語になし

『広辞苑：第二版』1969年・岩波書店

見出し語なし

『広辞林：第5版』1973年・三省堂

見出し語になし

『日本国語大辞典』（全20巻）1975年・小学館

見出し語になし

『広辞苑：第二版補訂版』1976年・岩波書店

見出し語になし

『広辞苑：第三版』1976年・岩波書店

見出し語になし

『学研国語大辞典』1978年・学研

見出し語になし

『広辞林：第6版』1983年・三省堂

見出し語になし

『日本国語大辞典縮刷版』（全10巻）1984年・小学館

見出し語になし

『国語大辞典』1985年・小学館〔日本国語大辞典の要約をもとにしたもの。
約2600頁〕

かつぜつ（滑舌）俳優・アナウンサーなどが発音する場合に、舌の回りが滑らかであること。

『国語大辞典 言泉』1986年・小学館

見出し語になし

『学研国語大辞典：第二版』1988年・学研

見出し語になし

『大辞林』1988年・三省堂

見出し語になし

『講談社カラー版日本語大辞典』1989年・講談社

見出し語になし

『大活字版国語大辞典』1990年・金園社

見出し語になし

『辞林21：机上版』1993年・三省堂

見出し語になし

『大辞泉』1995年・小学館

かつぜつ（滑舌）アナウンサーや俳優などが口の動きを滑らかにするために行なう発音の練習。早口言葉をしゃべるなど。

『講談社カラー版日本語大辞典：第二版』1995年・講談社

見出し語になし

『大辞林：第二版』1995年・三省堂

見出し語になし

『大辞泉：増補・新装版』1998年・小学館

かつぜつ（滑舌）アナウンサーや俳優などが口の動きを滑らかにするために行なう発音の練習。早口言葉をしゃべるなど。

『広辞苑：第五版』1998年・岩波書店

見出し語になし

『デイリー新語辞典』2000年・三省堂

かつぜつ（滑舌）演劇やアナウンスなどで、せりふや台本をなめらかに発声すること。

『日本国語大辞典第二版』（全13巻）2001年・小学館

かつぜつ（滑舌）アナウンサーや俳優などが口の動きを滑らかにするために行なう発音練習。早口ことばを練習するなど。

以上のことから判断するかぎり、かつぜつ（滑舌）は、「発音の際の滑らかさ」や「（発音を滑らかにするための）発音の練習」という意味を表わす語で、もともと演劇や放送関係で用いられていた語が、近年になって使用範囲を一般にまで広げたものと思われれます。一般に、語は、使用される範囲が狭くなると意味が特殊化し、逆に、使用の範囲が広がると意味が一般化するとされています。そのため、現在では語の使用範囲の広がりにともない、「発音の際の滑らかさ」というより一般的な内容を指すことが多くなっているのではないのでしょうか。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「二六時中」とはどういう意味ですか？

こたえ

「二六時中《にろくじちゅう》」という語は、むかし1日が12時（12刻）であったことから言われるものです。「 $2 \times 6 = 12$ 」ということです。あるいは、昼の6時（6刻）と夜の6時（6刻）との2つの6時で12時（つまり、「 $6 + 6 = 12$ 」）とも考えられます。現在では、1日を24時間とするのがふつうですので、「四六時中」ということが多くなっています。これは、「二六時中」にならって言い換えたより新しい語です。

同じような言い方に「二八そば（にはちそば）」があります。これは、そば粉八割とうどん粉二割で打つことから「 $2 + 8 = 16$ 」で「二八」だという解釈と、1杯16文であったことから「 $2 \times 8 = 16$ 」で「二八」であるという解釈とがあります。実際に、江戸時代には12文で売られたそばやうどんを「二六（にろく）」、1合12文の酒屋を「二六屋（にろくや）」などといっていましたし、16歳は「二八の歳（にはちのとし）」、15歳は「三五の歳（さんごのとし）」、十五夜は「三五の月（さんごのつき）」、十六夜（いざよい）は「二八の月（にはちのつき）」などともいわれました（以上『国語大辞典』より）。十五という数字を引き出すための「三五（さんご）、十五の春のこと～」のような表現も文芸などで用いられています。また、掛け算だけでなく、遊里などでは「五郎兵衛」のような名の客を「二三（にさん）」のように足し算であらわして替名（かえな）としていたともいわれます（『国語大辞典』より）。

日本では、比較的古くから数や数式を使う表現が小粋でしゃれた表現（知的なおもしろさのある表現）ととらえられていたようで、特にしゃれを好んだ江戸の人たちにはよく用いられました。何をおもしろいと感じるかは人それぞれ違うものですので、多くの現代人にとっては、別におもしろくもないものかもしれませんが、昔の人には「一日中」や「十二時」といわず、わざわざ掛け算（あるいは足し算）にして「二六時」としたところが、何ともおかしみを誘うものを感じられたのでしょう。



[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「もうすぐ」と「いよいよ」の違いは何？

こたえ

「いよいよ」は、〈何かのときが来た／来る〉という意味で、「もうすぐ」は〈何かが生じるときの時間差が小さい〉という意味です。また、「いよいよ」には、「ますます」という意味があります。但、これは古語的な用法で、現代語では「早春の候、いよいよ清適のこととお喜び申し上げます」のように手紙文の時候の挨拶で使うくらいです。「いよいよ」には、「いよいよの時には声をかけてください」のような用法もあり、「そのときがきたら～」という意味になります。

- 夏になって、海の色が *もうすぐ・いよいよ（古語）青い。
- *もうすぐ・いよいよ の時には声をかけて下さい。協力します。

「いよいよ」と「もうすぐ」に共通する用法についてみた場合には、「いよいよ」の方がおおげさな感じがあります。たとえば、オリンピックなどの大きなイベントでは「いよいよ開会の時を迎えます」というのが自然です。「もうすぐ開会の時を迎えます」はおかしくはありませんが、少し軽い印象です。

- 桜の花もつぼみはじめて、もうすぐ（やや軽い）・いよいよ 春です。
- オリンピック長野大会が、もうすぐ（やや軽い）・いよいよ 開幕です。

また、「もうすぐ」は時間の差があることを言うので、「もうすぐ開幕です」という

ときには、まだ始まっていません。しかし、「いよいよ」は「『その時』である」ことをいうので、まだ始まっていない場合にも、始まってすぐのときにもいえます。

- (審判が「プレイボール」とコールした直後に) *もうすぐ・いよいよ 日本シリーズの開幕です。

「いよいよ」は、やや形式ばった語なので、バスなどで温泉旅行に出かけて「いよいよ目的地に着きます。」というのは、その目的地が相当に尋常でないところでない限り(例えば、大変な秘境であるとかいうのでなければ)不自然になるでしょう。「もうすぐ目的地に着きます。」といわなければなりません。また、バスなどに乗っていて「あとどれくらいで着きますか？」と質問したとき、「もうすぐです。」とはいえますが、「いよいよです。」とはいえません。これは、「もうすぐ」が〈時間的な差がごく少ない・時間を置かずになんかが生じる〉という意味なのに対し、「いよいよ」は〈起こる時期があらかじめわかっている事柄の生じる時間が近づいた〉という意味だからです。

「桜のつぼみも膨らみいよいよ春です。」というのは、春がくるという時期が話し手にも聞き手にもだいたいわかっているという前提があって成り立ちます。ですから、「いつ？」という質問に「いよいよ」では答えにくいのです。それに対して、「もうすぐ」は、単に時間差が小さいことを言うだけですから、より一般的に使えます。

- 温泉にもうすぐ・??いよいよ 着きます。
- (世界一周のヨットが帰って来たのが見えて) もうすぐ (軽い) ・いよいよ 着岸 (到着) です。
- (「あとどれくらいで着きますか？」と質問されて) もうすぐ・*いよいよ です。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「プレゼントする」と「贈る」は同じ意味ですか？

こたえ

いずれも〈感謝の気持ちなどをあらわすために何かを与える〉という意味を表わします。但、「故人に名誉名人を贈る／＊プレゼントする。」のように、称号を与える場合に「プレゼントする」は使えません。

〈何かを与える〉意味でも、両者には意味合いの違いがあるようです。「プレゼントを贈る。」は許容できるように思いますが、「??贈り物をプレゼントする。」とはいいづらいように思います。また、「?贈り物を贈る。」「??プレゼントをプレゼントする。」にも容認度に差があるように感じられます。これは、「贈る」が〈与える〉という比較的一般的な意味を表わすのに対して、「プレゼントする」は〈(価値のある)物品を与える〉という意識が強いということだと思われます。そのため、物品をという意味を含む語を「プレゼントする」で受けると重言のように感じられるのでしょう。

また、「プレゼント」には、〈贈り物〉という意味と、〈贈り物をする〉という意味とがあります。たとえば、「これは友達へのプレゼントです。」では〈贈り物〉という意味で使われていますが、「抽選で海外旅行をプレゼント。」では〈贈り物をする〉意味で使われていると見られます。後者のように「プレゼント」は、「プレゼント(を)する」の「する」の意味を吸収し、〈プレゼントする〉意味を表わすことがあります。そのため、「プレゼント品」という冗長な表現もしばしば用いられます。これは、「プレ

「ゼント（する）品」という意識なのではないでしょうか。なお、「*贈り物品」とはいえませんが。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「昼過ぎに来てください。」といわれました。何時に行ったらいいですか？

こたえ

「昼過ぎ」は、文字通りに考えれば〈正午以降〉ということになりますが、感覚としてはより限定された時間帯を指しているように思われます。このような感覚には世代差や個人差も大きいのですが、シチズン時計(株)が以前に行なった調査では「13時16分」という平均値がでているようです（東京都内の20～50代の会社員335人のアンケート）。なお、その他の項目については以下のようになっているということです

早朝	4時50分～6時13分
昼下がり	13時4分～14時23分
夕方	16時39分～18時8分
宵の口	18時16分～19時32分
真夜中	0時33分～2時39分

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「学生」と「生徒」はどう違いますか？

こたえ

関連する語を含めて、辞書的な定義をのせると次のようになるでしょう。

「学生」

年齢の高い就学者

大学や専門(専修)学校などに在学している者

「生徒」

年齢の低い就学者

中学校・高等学校に在学している者

個人教授の教え子

「児童」

小学校に在学している者

18歳未満の就学者

「学童」

小学校に就学している者

「学徒」

学生と生徒

学問を研究している人

一般に、「学生」は「生徒」より年長で、「生徒」は「児童」より年長です。また、個人教授（ピアノの先生に教わる、習字の先生に教わる）の習い事については、年齢に関係なく「生徒」となります。但、茶道や華道（生け花）などの伝統的な習い事、いわゆる「お稽古ごと」では「弟子」と呼ばれることが多くなります。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

「～まみれ」と「～だらけ」の違いは何ですか？

こたえ

「まみれ」は、漢字では「塗れ」と書きます。「Xまみれ」というと、何かの表面がXによって全体的に覆われている様子を意味します。一方、「Xだらけ」は、何かXでいっぱいになっている様子を表わします。

「だらけ」は「まみれ」とほとんど同じ意味になることもあります。ただ、その場合にも意識の違いはあると思います。

- 男が血まみれになっている。→表面が血で覆われている
- 男が血だらけになっている。→身体や服が血でいっぱいになっている

「～まみれ」は表面についていうので、「だらけ」よりも使用範囲が狭くなります。例えば、Yが物体の表面と捉えにくいもの場合には「YがXまみれ」とはいえませんが、また、「～まみれ」は表面を覆っている様子をいうので、Xは主に液体や粉末状のものになります。Xが表面を覆うのに適さないもの場合、「YがXまみれ」とはいえませんが

- ? 部屋がほこりまみれになっている。→「部屋」は物体の表面とは意識しにくい
* 内容が間違いまみれだ。→非実体的なものにはいけない

*休日なので、道路が車まみれだ。→表面を覆っていると意識するには大きすぎる

[参考] 事故で道路が血まみれになっている。→道路の表面が血で覆われている

*洋服がシミまみれになっている。→「シミ」は液体による部分的な汚れをいう

- 部屋がほこりだらけになっている。
内容が間違いだらけだ。
休日なので、道路が車だらけだ。
洋服がシミだらけになっている。

また、「まみれ」は〈汚い〉という意味を含むので、マイナスのイメージとなります。「だらけ」もマイナスのイメージで使われることが多いのですが、中立の評価を示すこともあり、「まみれ」ほどはっきりとマイナスのイメージであるとはいえません。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

「～うちに」と「～あいだに」の違いは何ですか？

こたえ

「うちに」も「あいだに」も、〈一定の期間〉という意味を示します。このとき、時間は線的にとらえられていて、はじまりと終わりに区切られた期間という意識があります。

- 若い（うちに／あいだに）勉強しておきなさい。
- 明るい（うちに／あいだに）帰宅する。

のような場合には、どちらも可能ですが、

- この新聞は電車を待っている（＊うちに／あいだに）買った。
- 1時と2時の（＊うちに／あいだに）来て下さい。

のように、〈始まりと終わり〉が明確な場合に「うちに」は使えません。これは、期間の長短には関係しません。

- 長い（＊うちに／あいだに）街はすっかり変わってしまった。

のように、〈始まりと終わり〉とが（話し手に）はっきり意識されている場合には、「うちに」は使えません。逆に、

その（うちに／＊あいだに）またお訪ねいたします。

のように、ある期間を漠然と指し示す場合に「あいだに」は使えません。

また、「うちに」は、瞬間的な状態を示す語を受けるときに否定形をとり、

- 暗くならない（うちに／＊あいだに）帰宅する。

のようになります。

- 暗くなる（まえに／＊うちに）帰宅する。

とは、用法が異なるので注意が必要です（「＊暗くならないまえに帰宅する。」とはいえません）。

「うちに」と「あいだに」とが両立する文脈でも、意味合いには違いがあります。たとえば、

- 若い（うちに／あいだに）勉強しておきなさい。

のような場合、「うちに」には、ある期間をそれより後の期間と対比する意識があります。ここでは、〈若い：老いた〉という意識があって、「年をとってから勉強したので遅すぎる」という気持ちを含んでいると解釈できます。「あいだに」は、単に「若い時期」を指すだけです。

- ピアノを練習している（うちに／あいだに）雨が止みました。

という場合、「うちに」は「いつの間にか（気がついたら）雨がやんでいた」という意味を表わし、「雨が止んだ時点がピアノ練習の時間内であった」という事実を表現する場合には「あいだに」を使います。「あいだに」の方が、客観的な言い方になります。逆に、

- ピアノを練習している（うちに／？あいだに）上手になりました。

という場合には、具体的な事実関係（ピアノの練習の期間や事柄の生じる時点）がはっきりしないので、「あいだに」とはいいづらくなります。「ピアノを練習している（うちに）上手になりました。」は、「気がついたら、だんだんうまくなっていた」という気持ちをあらわしています。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)



[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

「一年にわたって」と「一年を通して」？どっちも意味が似てるけど、違いがはっきり説明できません。

こたえ

微妙な違いですが、それぞれの意味は、基本的に

- ～にわたって：何かが長い期間・範囲に及ぶことをいう
- ～をとおして（通して）：何かが始めから終わりまで続くことをいう
- ～をつうじて（通じて）：何かが期間・範囲の全体に及ぶことをいう

ということではないかと思います。違いということでは、

- ～にわたって：期間（範囲）が十分に長い（広い）という気持ちがある
- ～をとおして：始めから終わりまで「ずっと」という気持ちがある
- ～をつうじて：期間・範囲が「ひとまとまりの全体」だという意識がある

ということでしょう。「通して」と「通じて」は、同じ漢字で書くことからわかるように、意味はかなり似ていますが、「通じて」の方が一般的に（より多くの語句に接続すして）使えると思います。

したがって、

- 一年にわたって：

例文「一年にわたって輸入禁止が続いた」

→1年という期間がかなり長いという気持ちをあらわす

一年を通（とお）して：

例文「一年を通して涼しい日が続いた」

→年の最初の日から最後の日までずっと涼しかったということ（〈継続した〉）という意識が強い

一年を通（つう）じて：

例文「一年を通じて気温が高かった」

→1年間、平均的に見て気温が高かったということ（〈全体的に〉）という意識が強い

- （3日にわたって × 3日を通して × 3日を通じて）雨が降り続いた
「3日にわたって」→雨の降っている〈時間が長い〉という気持ち
（??四季にわたって 四季を通（とお）して 日本は四季を通じて）気候が良い
「四季にわたって」→必ずしも間違いではないが、やや不自然な表現と
感じられる
「四季をとおして」→「ずっと」気候が良いという継続の意識が強い
「四季をつうじて」→「四季」という「ひとまとまりの全体」の中で平均して気候が良いということ

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「アパート」と「マンション」の違いは何ですか？

こたえ

「アパート」というと主に賃貸で、低層の建物・間取りは狭く・大衆的で家賃は比較的安いというイメージがあります。一方、「マンション」には賃貸と分譲とがあり、中高層の建物・間取りは広く・高級感があって家賃は高いというイメージがあります。

アパートは、apartment houseに由来します。apartment houseは、共同住宅という意味で、同じ建物に複数の居住スペースがあり入口や階段などの施設を共用していれば、すべてapartment houseであると思われます。しかし、日本では特に戦後の住宅事情によって、「アパート」は木造で施設共同の狭い共同住宅であるというイメージが定着してしまいました。そのため、昭和30年代以降、中高層の共同住宅（apartment house）を指す外来語として「マンション」が用いられるようになりました。マンションは、〈大邸宅〉を意味する米語のmansionに由来します。高度成長期に、共同住宅の高級感や現代的イメージを出すために用いられたことから、「アパート」よりも高層で高級な共同住宅をいうようになりました。なお、アパート名によく使われる後にも高級感を狙ったものがあります、ハウス・メゾン・カーサ・アビタシオンは「家」という控えめな意味ですが、パレス・シャトー・シュロス「城・宮殿」、ヴィラは「別荘」の意味だといえます。コーポはcorporated houseの頭をとったものでしょう。（参考文献：『違いのわかる事典』など。）

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「…代」と「…料」はどう使い分けますか？

こたえ

値段を表わす接尾語には「代」「料」や、「費」「賃」などがあります。おおまかな傾向をまとめると次のようになりそうです。ただ、これらの使い分けには、慣用によるところが大きく、明確なルールがあるとはいえないように思います。「…代」と「…料」とを自然に使い分けるためには、それぞれの用例をよく確認しておく必要があるでしょう。

「…代《だい》」

何かと交換に支払う（または、受けとる）お金を表わす。商品（経済的に価値のあるもの）に対して支払う金額であることが多い。

電話代、バス代、ガソリン代、部屋代、電気代、ガス代、お茶代、バイト代

「…料《りょう》」

何かの利益（サービスなど）を受けた（または、与えた）ことに対して支払う（または、受けとる）お金を表わす。あらかじめ決まった一定の値段である場合が多い。

使用料、レンタル料、入場料、紹介料、授業料、送料、サービス料、延滞料

「…費《ひ》」

(自分または相手が)何かをするために必要なお金を表わす。支払わなければならない(または、用意しておかなければならない)お金という意味合いがある。

医療費、教育費、交通費、学費、会費、生活費、食費、交際費

「…賃《ちん》」

労働や借りものに対して支払うお金を表わす。

家賃、電車賃、手間賃《てまちん》、運賃、船賃《ふなちん》、借賃《かりちん》

例えば、アルバイトの報酬として受けとるお金に対しては、「バイト代」と「バイト料」という言い方が一般的だと思いますが、「バイト費」や「バイト賃」といわれることもあります。「バイト代」「バイト料」「バイト費」「バイト賃」の間に明確な意味の違いがあるようには思えませんので、これらの使い分けは、おおむね個人的なもの(人によってどの語を使うかが違う)なのではないでしょうか。また、「バイト代」と「バイト料」とは(一般的な言い方であるため)同じ話の中で混用されることがありますが、その場合の使い分けも語感や語呂によるものだと思います。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

「必ず」と「きっと」の違いはなんでしょうか？話者の意志？推測の割合？

「必ず帰ってくる？」→確かな証拠あり？自信がある？

「きっと帰ってくる？」→ただ期待してるだけ？

こたえ

だいたいその通りだと思いますが、誰（何）に対していつているのかを区別して考えたほうが良いかもしれません。以下に、「必ず」と「きっと」の用法をまとめてみます。なお、（ ）内の数字は、わかりやすくするためにつけたもの（便宜的なもの）です。

必ず

自分（話し手）に対して

「明日必ず返します。」→非常に強い意思・決意を示す
(100%)

相手（聞き手）に対して

「必ず来てください。」→非常に強い要求を示す (100%)

「8時に必ず来てください。」→相手に要求する言い方なので、
詳細を指定しても良い (100%)

その他（第三者や事物）に対して

「彼は必ず帰ってくる。」→非常に強い確信を示す（ほ

ぼ100%)

「彼は酒を呑むと必ず暴れる。」→例外がないことを示す

(100%)

「西風が吹くと必ず雨になる。」→自然な法則性を示す

(100%)

「明日は必ず晴れてほしい。」→非常に強い願望を示す

(100%)

きっと

自分（話し手）に対して

「明日きっと返します。」→非常に強い意思・決意を示す

(100%)

相手（聞き手）に対して

「きっと来てください。」→強い期待を示す（80～90%）

? 「8時にきっと来てください。」→相手に期待する言い方なので詳細を指定するとやや不自然になる

その他（第三者や事物）に対して

「彼はきっと帰ってくる。」→非常に強い期待を示す（90%以上）

「彼は酒を呑むとききっと暴れる。」→確率がかなり高い推測を示す（80%以上）

※「きっと」では、例外のないこと（100%）を示すことはできません。

「西風が吹くとききっと雨になる。」→確率がかなり高い推測を示す（80%以上）

※「きっと」では、100%の法則性を示すことはできません。

? 「明日はきっと晴れてほしい。」→話し手・聞き手以外への願望に対して用いると不自然に感じられる

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまともてあります。

にほんごの質問

～その他～

質問

日本語の語彙の数は全部でどのくらいですか？

こたえ

一説には数十万語以上ともいいますが、はっきりしたことはわかりません。語彙の総量は、長い間（計量）語彙論の課題であるといわれてきましたが、現在も明確な答えは出ていないと思います。なお、「語彙」は〈語のまとまり〉という意味ですから、その中に含まれる語の数の大きさを指す場合には、「語彙の数」でなく「語彙の量」というのが普通だと思います。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

達人と鉄人はどう違うのですか？

こたえ

「達人」というのは、特定の分野における長年の修行やトレーニングによって、きわめて豊富な知識を獲得したり、特に優れた技術や能力を身につけた人のことです。〈何かを極めた人〉という意味ですね。また、長年の経験が必要ですから、基本的に「達人」と呼ばれる人には年をとった人が多くなります。若い人を「達人」というときには、傑出した存在であることになります。

一方、「鉄人」というのは、身体が非常に丈夫で強い人ということですね。肉体的な強さだけでなく、精神的な強さを指して「鉄人」ということもあります。また、若くても年寄りでも鉄人は鉄人です。

まとめ

- 達人：特定の分野での知識や技術が特に優れている。長年の修行が必要（基本的に年寄り）。
- 鉄人：肉体や精神が非常に強い。年齢経験不問。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)



[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまともてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

「あける」と「ひらく」の違いは何ですか？

こたえ

「あける」も「ひらく」も、〈障害(しょうがい)をなくして開放(かいほう)した状態(じょうたい)にする〉という意味では同じです。

「あける」と「ひらく」には、自動詞としての用法と他動詞としての用法があります。

他動詞の「あける」は『開ける』または『空ける』と書きます。『開ける』と書くときは、〈障害をなくして開放した状態にする〉という意味ですが、『空ける』と書くときは、〈空間をつくる／空(から)にする〉の意味です。自動詞の「あける」は『明ける』と書き、〈何かが終わって新しいものになる〉意味になります。一方、「ひらく」は、自動詞でも他動詞でも〈障害をなくして開放した状態にする／なる〉意味を表わします。

あける	自動詞	『明ける』	〈何かが終わって新しいものになる〉
	他動詞	『空ける』	〈空間をつくる／空にする〉
		『開ける』	〈障害をなくして開放した状態にする〉
ひらく	自動詞	『開く』	〈障害をなくして開放した状態になる〉
	他動詞	『開く』	〈障害をなくして開放した状態にする〉

ただし、〈障害をなくして開放した状態にする〉意味でも「あける」と「ひらく」には違いがあります。「あける」では、次の2つの文が同じ意味で使えます。

- 瓶(びん)の蓋(ふた)をあける
- 瓶をあける

一方、「ひらく」では、次のようにしか言えません。

- 瓶(びん)の蓋(ふた)をひらく

また、「ひらく」には『広げる』意味がありますから、〈障害をなくして開放した状態にする〉意味で使うときにも『広げる』意味合いが含まれることがあります。そのため、「扉をひらく」というと、前後に動かして開放するように感じられます。

「あける」と「ひらく」の用法の違いを一覧表の形でまとめておきます。

他動詞「あける」「ひらく」

目的語	「あける」・「ひらく」の類義語			「あける」・「ひらく」の反意語			「あける」・「ひらく」の意味
	あける	ひらく	その他	しめる	とじる	その他	
戸を	○	○		○	○		〈障害をなくして開放する〉
門を	○	○		○	○		〈障害をなくして開放する〉
窓を	○	○		○	○		〈障害をなくして開放する〉
カーテンを	○	○		○	○		〈障害をなくして開放する〉
弁当を	○	○		○	○		〈障害をなくして開放する〉
瓶の蓋を	○	○		○	○		〈障害をなくして開放する〉

							る)
瓶を	○	×		○	○		〈障害をなくして開放する〉
袋の口を	○	○		○	○		〈障害をなくして開放する〉
袋を	○	△		○	△		〈障害をなくして開放する〉
封筒を	○	○		×	○		〈障害をなくして開放する〉
封を	○	○		×	○		〈障害をなくして開放する〉
ファスナーを	○	○		○	×		〈障害をなくして開放する〉
目を	○	○		×	○		〈身体的の器官を開放する〉
口を	○	○		×	○		〈身体的の器官を開放する〉
穴を	○	×		×	×	ふさぐ	〈空間をつくる〉
隙間を	○	×		×	×	なくす ふさぐ	〈空間をつくる〉
グラスを	○	×		×	×	満たす	〈空にする〉
予定を	○	×	取り消す なくす	×	×	埋める	〈空にする〉
家を	○	×	留守にする	×	×		〈空にする〉
店を	○	○	はじめる 開店する	○	×		〈営業時間がはじまる〉
店を	○	○	はじめる オープンする 開店する	○	○	畳む やめる	〈新しいお店をつくる〉
足を	×	○		×	○		〈先の方を広げる〉
爪先を	×	○		×	○		〈先の方を広げる〉
魚を	×	○	さばく 割(さ)く	×	×		〈切って広げる〉
港を	×	○		○	○	閉ざす	〈開放して自由な状態にする〉
国を	×	○		×	○	閉ざす	〈開放して自由な状態にする〉
本を	×	○		×	○		〈ものを広げる〉
傘を	×	○		×	○		〈ものを広げる〉

自動詞「あける」「ひらく」

目的語	「あける」・「ひらく」の類義語			「あける」・「ひらく」の反意語			「あける」・「ひらく」の意味
	あける	ひらく	その他	しめる	とじる	その他	
扉が	×	○	開(あく)	×	×	しまる	〈障害をなくして開放される〉
花が	×	○	咲く	×	×		〈植物の一部が広がる〉
傷口が	×	○	開(あく)	×	○		〈空間ができる〉
差が	×	○	開(あく)	×	×	縮まる／詰まる	〈距離が大きくなる〉
休みが	○	×	終わる	×	×	はじまる	〈何かが終わって新しいものになる〉
梅雨(つゆ)が	○	×	終わる	×	×	梅雨に入る	〈何かが終わって新しいものになる〉
夜(よ)が	○	×	朝になる	×	×		〈夜から朝になる〉

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

「この近くに郵便局がありますか？」と「この近くに郵便局はありますか？」の違いは何ですか？

こたえ

「この近くに郵便局がありますか？」という文がふさわしい状況を考えて、預かってもらっている郵便物を取りに行くために特定の郵便局を探しているとか、郵便局を目印にお店などを探しているとかいうことだと思います。つまり、自分のいる場所の近くに郵便局があることは、大体わかっているわけです。「この近くに郵便局がありますか？」という文は、おおざっぱに言えば、「この近くに郵便局があると思うのですが（郵便局があるはずなのですが）、それはどこですか？」と質問しています。

「この近くに郵便局はありますか？」は、郵便局があるかどうか自体が良くわかっていないという状況です。たとえば、何か郵便局に行く必要があって（郵便貯金を引き出したいとか）郵便局を探しているような場合です。このときに、特定の郵便局が念頭にあるわけではありません。「この近くに郵便局はありますか？」という文は、おおざっぱに言えば、「この近くに郵便局があるのでしょうか？もしあるのならば、それはどこですか？」と質問しています。

まとめていうと、「この近くに郵便局がありますか？」は、特定の郵便局を意識した言い方で、近くに郵便局があると予測されています。一方、「この近くに郵便局はありますか？」では、特定の郵便局が意識されているわけではなく、近くに郵便局があるの

かないのかもわかっていません。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

旅で、一つ質問を発見：展示物に張ってある紙に「手を触れないで下さい」って書いてありました。どうしてもその「を」の意味が分かりません。「で」じゃだめでしょうか？

こたえ

「触れる（ふれる）」という動詞には、「触る（さわる）」という意味だけでなく、「くつつくようにする」という意味もあります。〈さわる〉意味では自動詞ですが、〈くつつくようにする〉意味では他動詞として使われます。ですから、「手をふれる」と『を格』をとることができます（但、ほとんどの場合、「を」の前に来る身体部位は「手」か「唇（または口）」です）。

注意書きでは、「手を触れないでください。」、または、もっと丁寧に「お手を触れないようお願いします。」などと書くのが普通です。この場合の「ふれる」は他動詞ですから、はっきり「手を」と言った方がわかりやすくなります（人に何かを注意する場合には、「投げないでください」「捨てないでください」ではダメなのです。「物を投げないでください」「ごみを捨てないでください」のように具体的にいう必要があります。あいまいな言い方は注意としての効果が低くなります）。

「手でふれる」ということもできますが、注意書きに「手でふれる」のように書くことは少ないでしょう。これは、「さわる」という意味での「ふれる」（自動詞）は、手で行なうのが普通だからです。ですから、わざわざ「手で」というのは、くどく感じら

「手を触れないで下さい。」

れます。人に注意を促すときに、くどい言い回しは逆効果になりやすいと思われます。相手をバカにしているような印象を与えて、必要以上に不快に感じられる場合があるからです。そのため、たとえば、「物を手で投げないでください。」とか「ごみを手で捨てないでください。」のようには言わないものです。同じように、「さわる」という動詞を使う場合にも、「展示物には触らないでください」のように「手で」などの語句は省略します。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

「どうしたんですか？」と「どうしましたか？」の違いはなんですか？

こたえ

「どうしたんですか？」の「ん」は、本来は、「～なのです」「～のです」と同じ「の」です。ですから、内容を確認する働きをしているといえそうです。たとえば、「頭が痛いんです。」では「頭が痛い」という内容を「ん」でもう一度確認していることとなります（強い断定）。

ただ、実際の発話において、「ん」は、相手に何かを訴えかけるという働きをしているようです。例えば、授業中の先生の質問に答えられないときには、「わかりません。」といいます。「わからないんです。」とはいいません。しかし、あまり自信のない答えをするときには、「わからないんですけど、～～ではないかと思います」というでしょう。このような場面で、「わかりませんが、～～ではないかと思います」とは言わないものです。

「わかりません。」は〈わからない〉という事実を伝えるだけですが、「わからないんです。」は〈わからない〉という事実を伝えるだけでなく、相手に何かを訴えかけるという働きをしていると思われます。ですから、先生の質問に答えられない場合など、〈わからない〉という事実だけを伝えるべき場面では「わかりません。」といいます。「わからないんです。」と言ってしまうと、〈わからない〉ということだけでなく、例えば「何で俺に質問するんだ」とか「先生の説明が悪いんじゃないの」などというよう

な不必要な情報（感情の要素）を相手に与えてしまうでしょう。それに対して、自信のない答えをするときに「わからないんですが、～～」と前置きするのは、「間違っているかもしれないが許して欲しい」とか「間違ったことをいってもおこらないでね」とか「きちんとフォローしてください」といった「訴え」をしている（自分の気持ちを推測してほしいと思っている）わけでしょう。〈わからない〉という事実と同時に、それに関連するさまざまな情報（感情の要素）を伝えているのです。「わかりませんが、～～」というのでは、このような気持ちは伝わりません。

ですから、「どうしましたか？」は、やや事務的で冷たい感じを与えます。事務的な場面（役場の窓口とか大学の事務とか）では、「どうしましたか？」と言われるのが普通です。「どうしたんですか？」では、やや失礼に感じたり、逆に少なれなれしく感じられるでしょう。これは、「ん」に感情を表出する機能があるためと思われます。逆に、親しみを表わす必要のある場面（医者が患者を診察するなど）では、「どうしたんですか？」といった方がよいでしょう。「あなたの用件に関心がありますよ」というメッセージを含むことになるからです。また、それだけでなく「昨日まで元気そうだったのに」という「驚き」や「心配しないで症状を言ってくださいね」という「配慮」などをあわせて伝えることもあるかもしれません。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

「～わけではない」、は“あることを部分的に否定している”と、文法の本に書いてあるけど、そこにあげられた例文は「学生時代、勉強ばかりしていたわけではない。よく旅行もした。」です。でも、それ以外の意味で使うことはないでしょうか？

こたえ

まず、「わけ」について。「わけ」は、主にものごとの〈理由や根拠〉などをあらわします。

- 遅刻したわけを言いなさい。
- わけもなく涙が出ます。
- どういうわけかわかりませんが、彼がそう言ったのです。

「わけ（訳）」は、もともと「分け・別け」という語と同じでした。つまり、何かと何かを区別するという意味から、正しいものとそうでないものとを区別するという意味になり、理由や根拠を示すようになったと推測されます。ですから、「わけ」が表わす理由や根拠には「正当な理由」「正しい根拠」という意味合いがあります。「これにはわけがあるんです。」とか「実はいろいろとわけがありまして。」などと弁明する場合には、正当な理由があると主張しているわけです。また、「わけのわかった人」といえば、「きちんとした常識・分別を身につけた人」という意味になります。これも、正しい物事とそうでないものとを区別するということでしょう。

しかし、「～わけではない」という場合には、すこし事情が異なります。例えば、

「彼女は万引きの犯人だが、お金がないわけではない。」というような場合は、〈お金がないという理由で万引きをしたのではない〉という理由・根拠をはっきりと指し示しているといえるでしょう。一方、「学生時代、勉強ばかりしていたわけではない。」のような場合には、「わけ」が何かの理由・根拠を直接示しているではありません。このような場合の「わけ」は、「勉強ばかりしていた」という事柄を漠然と指している（受けている）とみなければなりません。文法書に“あることを部分的に否定している”と書かれているのは、「わけ」が事柄や状態を漠然と指し示すからでしょう。たとえば、「学生時代、勉強ばかりしていたわけではない。」というときに、直接に否定されているのは「わけ」ということになりますが、「わけ」が〈学生時代勉強ばかりしていたこと〉を（はっきりとはなく）漠然と指し示しているために、部分的な否定であると感じられるということでしょう。

しかし、このような「～わけではない」の用法でも、〈理由や根拠〉を示さないというわけではありません。たとえば、「学生時代のあなたはとても真面目だった。」と言われたことに対して、「学生時代、勉強ばかりしていたわけではない。よく旅行もした。」というときには、「学生時代、勉強ばかりしていた」ことを「とても真面目」であることの〈理由・根拠〉と考えているという意味合いがあります。また、「彼が嫌いだというわけではない。」と言う場合には、例えば、〈僕が彼に不親切だと思うかもしれないが、それは彼が嫌いだという理由からではない〉というような意味があると考えすることもできます。つまり、「～わけではない」という言い方は、（文の中で具体的に示された）ある事柄や状態を漠然と指して否定する（部分的に否定する）だけでなく、その事柄や状態が（多くの場合、文の中では具体的に示されない）別の事柄や状態の理由・根拠になっていることも示す表現であるといえるでしょう。

まとめ。「～わけではない」の「わけ」は、（「～」の部分で言及された）ある事柄や状態を漠然と指し示します。そして、その事柄や状態が、文脈の中にある（多くの場合、文の中には具体的に現われない）別の事柄や状態の理由や根拠を示すようになっています。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

「メールをありがとう」。一瞬、間違ってると思ったけど、なんかどっかで聞いたことのある用法です。また、「を」はなくてもいいですか？

こたえ

「メールをありがとう」は、「メールを（送ってくれて）ありがとう」という表現だと思われます。特に間違った表現だとは思いません。ただ、日本語では、公式の文面で助詞などを省く傾向があります。「右、ご報告 [を] 申し上げます。」、「ご助力のほど [を] よろしくお願い申し上げます。」、「ご不明な点など [が] ございましたら、お問い合わせください。」のように、助詞を省略したほうが丁寧に感じられます。手紙のように非対面的なコミュニケーションでは、不要な摩擦や誤解を避けるために通常よりも丁寧な表現にしなければなりませんから、返信で「手紙をありがとう。」と書いたのでは丁寧さが足りないと思います。メールの返事であっても、「メールありがとう [ございます] 。」としたほうが無難でしょう。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「試験を準備する／試験の準備をする」は、範囲的にすこし意味が違うと思いますが、「車を運転できる／車の運転ができる」は、あまり違わないですよね？

こたえ

「試験を準備する」というのは、〈試験の問題を作る〉ことだと受けとれますが、「試験の準備をする」というときに、まず思い浮かぶのは〈試験のために勉強する〉ということです（試験の問題を作ったり会場を整備するという意味にもなるが、第一感ではないように思います）。他方、「車を(が)運転できる」と「車の運転ができる」とは同じ意味です。これは、「～を～する」という文に含まれる語彙の特徴によるものでしょう。「試験」は（試験問題を）作る側と受ける（試験問題を解く）側とがいますが、「運転」はそうではありません。また、

- 「料理を準備する」＝料理を作っておく
- 「料理の準備をする」＝料理をするために下ごしらえや台所の整備をする

では、「料理」が様々な手順を重ねて行なわれる事柄であること（「料理」という語に「材料の調達→下準備→調理→盛りつけ」のような手順に関わる知識が含まれていること）が関わっているように思います。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)



[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「メールを見る」「インターネットをする」はいいですか？「メールを見る」は大丈夫だと思いますが、「インターネットをする」はどうかね？

こたえ

現実問題としてどちらの言い方も使われます。個人的には、メールは「読む」のだと思いますし、インターネットというのはネットワークのハードの部分（サーバの総体）をいうのだと思うのですが。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

ですから、学校の敷地の中（内部）にいないといけない（範囲外に出てはいけない）という意味で「授業時間に学校から出てはいけません。」というのは自然な表現です。しかし、「?学校から出て駅に向かった。」のような言い方はやや不自然になります。これは、〈範囲の外に出る〉だけでなく、その後に〈移動〉という一連の事柄が続くことをあらわしているためで、このような場合は、「学校を出て駅に向かった。」というほうが自然です。

このことは、「二階から落ちる。」「*二階を落ちる。」の違いによっても理解できます。つまり、物理的にある場所を離れた後に事柄や動作が継続している場合には「を」、事柄や動作が継続しない場合には「から」ということになります。「～を出る」は〈継続的に離れる〉ことを指すのに対して、「～から出る」は〈範囲の外に出る〉というやや限定的な意味を指しているのです。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「予約したほうがいいですか？」と「予約したほうがいいでしょうか？」の違いは、後者がより間接的で丁寧ですか？

こたえ

その通りだと思います。「でしょう」は「だろう」の丁寧語にあたります。たとえば、天気予報が「明日の広島県地方は晴れです。」とは言わずに「明日の広島県地方は晴れでしょう。」と言うのは、(1)断定の意味をやわらげて(2)口調を丁寧にするためです。

「予約したほうがいいでしょうか？」は、「予約したほうがいいですか？」より、

□□□ 「いいです」という断定の意味がやわらげられているので押しつけがましくない

□□□ 「でしょう」はもともと丁寧語なので丁寧な言い回しに聞こえる

という理由で、より間接的（断定を避ける言い方）で丁寧であるといえます。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～語彙・意味～

質問

「子供がいます」と「子供がいます」の違いはなんですか？

こたえ

存在をあらわす「いる」と「ある」とは、一般に、生物が「いる」・非生物が「ある」ということになります。ただ、人間について「ある」といえることがあります。例えば、「そんなバカなことをするやつがあるか!」とか「私の発言をいろいろと批判する人があるようですが、」のようにいうことができます。「妻子ある人」とか、「その方面では知り合いがあります。」などの英語のhaveのような用法も、基本的には同じと考えられます。

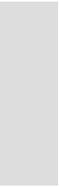
ただし、このような人間を受ける「ある」には、用法上の制約があります。現代語では、人を受ける「ある」は、対象が不特定の人物である場合にしか用いることができません。つまり、「彼には3人の子がある。」とはいえますが、「?彼には太郎という子がある。」という言い方は不自然に感じられます。

「子供がいます」というのは、子供がいるという〈存在の事実〉だけを話題にする表現です。子供の存在をはじめて話題にするとか、子供に関する具体的な事実を話題にしないとこういう場合に使われます。一方、「子供がいます」は、より一般的な意味で使うことのできる表現です。

[このページの先頭へ↑](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)



[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

「どちらでもいいです、どちらもいいです、どちらともいいです。」みんな一緒？

こたえ

「どちらも」は複数のものを一括して捉える言い方で、「どちらでも」は複数のものからひとつを選ぶ言い方です。「どちらも」→〈A and B〉・「どちらでも」→〈A or B〉ということになるのでしょうか。また、「いいです」には、受けいれる意味を示す用法と、断る意味を示す用法とがあり、場面に応じて使い分けられます。

□□□ 「注文品なので少し時間がかかりますがよろしいですか？」 「いいです。」
→OK！

□□□ 「こちらの商品は包装いたしますか？」 「いいです。」 →No Thank you

この場合の「いいです」と似た意味の言葉に「結構です」があります。

□□□ 「今晚あたり一杯やりませんか？」 「結構ですね。」 →OK！

□□□ 「今晚あたり一杯やりませんか？」 「結構です。」 →No Thank you

なお、文末の「ね」については、あとで述べます。

「どちらもいいです」は、〈両方OK/GOOD〉という意味にも〈両方No Thank you〉という意味にもなります。一方、「どちらでもいいです」は〈両方OK〉になりますが、正確には〈任意の片方でOK〉という意味です。「どちらともいいです」は、「どちらもいいです」とほぼ同じ意味ですが、日常的にはあまり使わない言い方かもしれませ

ん。

「AとBとがありますがどうしますか？」

- 「どちらでもいいです。」→両方良い（選びにくいなあ） or AもBもイヤだ！
- 「どちらでもいいです。」→AでもいいしBでもいい（あなたが決めて下さい）

また、「いいですね。」とか「いいですな。」のような終助詞がつくと、どの用例でも基本的に〈OK!〉や〈GOOD!〉の意味になると思われます。ただ、「いいですよ。」については、「いいです」と同じく文脈に依存しますので注意が必要かもしれません。

- 「どちらでもいいですね。」→両方良いので選びにくいなあ、両方いいものだね（褒める）
- 「どちらでもいいですよ。」→両方良い（選びにくいなあ） or AもBもイヤだ!!

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

「どこへ(に)行きますか」と「どこへ(に)行くんですか？」はどう違いますか？

こたえ

「行くんですか？」の「ん」は助詞の「の」が変化した形です。「の」には、話し手が確信をもって（明らかな証拠があるなど）断定や推測をしていることを示す用法があります。たとえば、「あきらめろ。君は負けたんだ。」というときには、話し手は聞き手（「君」）が〈負けた〉ことをかなり強く確信している（何か明らかな証拠や状況がある）わけです。おなじく、「彼が泣くなんて、よっぽど悔しかったんだらう。」というときには、話し手は「彼」が〈悔しかったから泣いた〉ことをかなり強く確信している（何か明らかな証拠や状況がある）わけです。ですから、「それではダメです。」／「それではダメなんです。」では、「それではダメなんです。」の方が強い言い方になります。つまり、「それではダメなんです。」というときには、話し手が〈ダメであること〉を確信している（なぜダメなのかについて明らかな証拠や状況があると考えている）と考えられるからです。

「どこへ行くんですか？」でも、「ん（の）」は、話し手に確信があることを示しています。つまり、質問する相手が〈どこかへ行く〉ことを話し手（質問者）が確信しているわけです。ですから、大きな旅行カバンを持った知人にたずねるときには（旅行カバンは、どこかへ旅行に行くことの明らかな証拠となるため、質問者は相手がどこかへ行くことを確信しているはずです）、「どこへ行くんですか？」という方が自然です。相手が車に乗り込もうとしているときなども「どこへ行くんですか？」という方が良い

でしょう。もちろん、自分が道を歩いているときに逆から知り合いが歩いてきた場合にも、その知り合いは明らかに〈どこかへ行く〉わけでしょうから、「どこへ行くんですか？」と聞くことになります。

このような場合にも、「どこへ行きますか？」といえないことはありません。それは、「どこへ行きますか？」は、より中立な（客観的な）表現だからです（そのため、日本語教育では「の」を使う表現を導入する以前には「どこに行きますか？」のような形を教えるのが普通です）。しかし、質問する相手が〈どこかへ行く〉ことが明らかなきに、「どこへ行きますか？」というのは、やや不自然にも感じられます。

「どこへ行くんですか？」は、〈どこかへ行く〉ことが明らかな状況で使う表現ですから、言い方によっては相手に詰問したり、注意したりする（怒る・叱る）意味にもなります。例えば、「こんな時間に一体どこに行くんですか？」（詰問）、「コラ！どこへ行くんだ！」（注意）のようになります。また、〈どこかへ行く〉ことがそれほど明らかでない状況で「どこへ行くんですか？」を使うと、場合によっては失礼な言い方にもなります。例えば、「夏休みはどこに遊びに行くんですか？」「いや、どこにも遊びに行く予定はないよ。お金がないからね。。。」のようになります。この場合は、〈休みなんだから当然どこかに遊びに行くだろう〉ということで質問しているわけですが、結果的に少しイヤミになっています。このような場合には、「夏休みはどこに遊びに行きますか？」といえ、〈遊びに行く〉かどうかを断定していない（より中立な表現である）ため、それほど失礼にはならないでしょう。

同じように、相手を飲みに誘うとき（相手が行くかどうか分からないとき）などには「どこかに飲みに行きますか？」といわなければなりません。「どこかに飲みに行くんですか？」というと、誘っている言い方ではなく、相手が飲みに行くことを確認する（質問する）言い方になります。相手が飲みに行くに違いないという確信があって言っているということになるからです。

「どこへ(に)行くんですか？」

相手が〈どこかへ行く〉という確信（根拠）があるときに使う。

「どこへ(に)行きますか？」

相手が〈どこかへ行く〉かどうか分からないときにも使える。逆に、相手が〈どこかへ行く〉ことが明らかなきに使うとやや不自然になる。

「どこへ行くんですか？」

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)



[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)

[[トップページ](#)] > [[にほんごの質問](#)] > [現在のページ]

このページの内容について、学術的な正確さは保証しません。参考文献・資料などについては[主な参考文献](#)にまとめてあります。

にほんごの質問

～日本語表現法～

質問

日常生活で「花より団子」という諺を使いそうなのはどんな場面ですか？そして、どのように使いますか？

こたえ

日常生活で「花より団子」を使う機会はほとんどないでしょう。特に、若い人は会話にことわざの類いを入れたりしないものです。

[このページの先頭へ↑](#)

[「にほんごの質問」目次に戻る](#)

[←ひとつ前に戻る](#)

[トップページに戻る](#)